

令和6年度
川口市教育委員会事務点検・外部評価報告書
(令和5年度実施事業)

川口市教育委員会

も く じ

■ はじめに

| | |
|---------------|---|
| 1 趣 旨 | 1 |
| 2 目 的 | 1 |
| 3 外部評価の対象 | 1 |
| 4 外部評価の方法 | 1 |
| 5 評 価 | 1 |
| 6 外部評価結果 | 2 |
| 7 今後の取り組み | 2 |
| 8 令和6年度外部評価委員 | 2 |

■ 令和6年度評価結果一覧

■ 事務点検・外部評価調書

基本目標 I

| | |
|--|----|
| 指標(1) 埼玉県学力・学習状況調査において県平均を上回る項目数 | 5 |
| 指標(2) 英語教育実施状況調査において中学校第3学年における CEFR A1 (英検3級) レベル相当以上の英語力を 有すると思われる生徒数の割合 | 7 |
| 指標(3) 特別支援学級設置校数 | 9 |
| 指標(4) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合 | 11 |
| 指標(5) 全国学力・学習状況調査の質問紙のうち、 自尊感情、規範意識を示す割合 | 13 |
| 指標(6) 各学年において「人権感覚育成プログラム」を 活用した割合 | 15 |
| 指標(7) 小児生活習慣病予防検診受診率の割合 | 17 |
| 指標(8) 体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合 (小学校6年生、中学校3年生) | 19 |
| 指標(9) 高等学校卒業後、大学への進学者と国公立大学進学者の割合 | 21 |

基本目標Ⅱ

| | | | |
|-------|---|-------|-----|
| 指標(1) | 教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合 | — | 2 3 |
| 指標(2) | いじめの解消率 | ————— | 2 5 |
| 指標(3) | 不登校児童生徒の割合 | ————— | 2 7 |
| 指標(4) | 不登校児童生徒への指導の結果、 好ましい変化がみられた割合 | ————— | 2 9 |
| 指標(5) | 地域の方に勉強や運動を教えてもらっていると 感じている児童の割合(小6) | ————— | 3 1 |
| 指標(6) | 地域・社会をよりよくするための参画意識(中3) | ————— | 3 3 |
| 指標(7) | 各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間) | ————— | 3 5 |
| 指標(8) | 放課後子供教室の実施校数 | ————— | 3 7 |

基本目標Ⅲ

| | | | |
|-------|--------------------------|-------|-----|
| 指標(1) | 生涯学習施設の年間利用者数 ※南平文化会館を除く | ————— | 3 9 |
| 指標(2) | 公民館及び専門施設の年間講座参加者数 | ————— | 4 1 |
| 指標(3) | 図書館年間利用者数(入館者数) | ————— | 4 3 |
| 指標(4) | 科学館の年間利用者数 | ————— | 4 5 |
| 指標(5) | スポーツ施設の年間利用者数 | ————— | 4 7 |

基本目標Ⅳ

| | | | |
|-------|---------------------|-------|-----|
| 指標(1) | 文化財センター及び分館への年間来館者数 | ————— | 4 9 |
| 指標(2) | 古文書・写真等資料の収蔵点数 | ————— | 5 1 |

はじめに

1 趣 旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされています。また、点検及び評価を行うに当たり、教育に関する学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

この報告書は、同法の規定に基づき、川口市教育委員会が行った事務点検・外部評価（以下「外部評価」という。）の結果をまとめたものです。

2 目 的

川口市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、効果的な教育行政の推進に資すること、並びにその結果を公表し市民への説明責任を果たしていくことを目的としています。

3 外部評価の対象

川口市教育委員会では、本市の教育の振興を総合的かつ計画的に推進していくための指針である「川口市教育大綱」に基づいて、「川口市教育振興基本計画」を策定しました。計画の推進にあたりましては、25の指標を掲げておりますが、「文化芸術事業に携わる団体・個人の数」の指標を担当している文化推進室の業務が、令和5年度から条例の定めるところにより、市長が管理・執行することとなったため、今年度はその指標を除いた、24の指標を外部評価の対象としました。

4 外部評価の方法

24項目の評価指標に対する内部評価に基づき、外部評価会議において、学識経験者等からの評価を受けました。

5 評 価

「令和5年度の実施状況」、「令和6年度以降の取り組み」及び「指標の達成状況」の内容等を総合的に判断し、次のA～Dの4つの区分としました。

「A」…基本目標の目的実現に向けて5年度の目標は達成されている。

「B」…基本目標の目的実現に向けて5年度の目標は概ね達成されている。

「C」…上記Bと比較して達成状況は低い。

「D」…基本目標の目的実現に向けて5年度の目標はほとんど達成されていない。

6 外部評価結果

外部評価結果では、全24指標の内、「A：達成されている」との評価が10指標、「B：概ね達成されている」との評価が11指標、「C：達成状況は低い」との評価が3指標でありました。

7 今後の取り組み

川口市教育委員会では、今回の結果及び意見等をふまえ、本市教育行政のさらなる発展を目指し、具体的な取り組みを進めていきます。

8 令和6年度外部評価委員

(50音順 敬称略)

| 氏 名 | 備 考 |
|-------|--------------|
| 久保村里正 | 文教大学 教育学部 教授 |
| 小野智幸 | 川口市PTA連合会 会長 |
| 久保田真一 | 川口市退職校長会 会員 |

令和6年度 評価結果一覧

| 基本目標 | 指標 | 指標名 | 主管課 | 令和6年度 | | | | | | | | |
|--------------------------|-----|--|-------|------------------|--------------------|------------------|-----------------------|------------------|--------------------|------------------|-----------------------|--|
| | | | | 内部評価（職員における評価） | | | | 外部評価 | | | | |
| | | | | （達成されている） （A） | （概ね達成されている） （B） | （達成状況は低い） （C） | （ほとんど達成されていない） （D） | （達成されている） （A） | （概ね達成されている） （B） | （達成状況は低い） （C） | （ほとんど達成されていない） （D） | |
| 基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり | | | | | | | | | | | | |
| Ⅰ | (1) | 埼玉県学力・学習状況調査において県平均を上回る項目数 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (2) | 英語教育実施状況調査において中学校第3学年におけるCEFR A1（英検3級）レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合 | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (3) | 特別支援学級設置校数 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (4) | 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (5) | 全国学力・学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (6) | 各学年において「人権感覚育成プログラム」を活用した割合 | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (7) | 小児生活習慣病予防検診受診率の割合 | 学校保健課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (8) | 体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合（小学校6年生、中学校3年生） | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (9) | 高等学校卒業後、大学への進学者と国公立大学進学者の割合 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| 基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり | | | | | | | | | | | | |
| Ⅱ | (1) | 教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講終了者の割合 | 指導課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (2) | いじめの解消率 | 指導課 | | | ○ | | | | | ○ | |
| | (3) | 不登校児童生徒の割合 | 指導課 | | | ○ | | | | | ○ | |
| | (4) | 不登校児童生徒への指導の結果、好ましい変化がみられた割合 | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (5) | 地域の方に勉強や運動を教えてもらっていると感じている児童の割合（小6） | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (6) | 地域・社会をよりよくするための参画意識（中3） | 指導課 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (7) | 各学校における「学校応援団平均活動回数」（年間） | 生涯学習課 | | | ○ | | | | | ○ | |
| | (8) | 放課後子供教室の実施校数 | 生涯学習課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| 基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり | | | | | | | | | | | | |
| Ⅲ | (1) | 生涯学習施設の年間利用者数 ※南平文化会館を除く | 生涯学習課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (2) | 公民館及び専門施設の年間講座参加者数 | 生涯学習課 | | | ○ | | | | ○ | | |
| | (3) | 図書館年間利用者数（入館者数） | 中央図書館 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (4) | 科学館の年間利用者数 | 科学館 | ○ | | | | | ○ | | | |
| | (5) | スポーツ施設の年間利用者数 | スポーツ課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| 基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用 | | | | | | | | | | | | |
| Ⅳ | (1) | 文化財センター及び分館への年間来館者数 | 文化財課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| | (2) | 古文書・写真等資料の収蔵点数 | 文化財課 | | ○ | | | | | ○ | | |
| 計 | | | | 10 | 10 | 4 | 0 | 10 | 11 | 3 | 0 | |

事務点検・外部評価調書

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(1) 埼玉県学力・学習状況調査において県平均を上回る項目数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|-----------------|------------------|--------------------|
| <p>埼玉県学力・学習状況調査において小学校4年生から中学校3年生までの国語、算数・数学及び英語の全項目数14項目の中で、埼玉県平均正答率を上回った項目数。</p> <p>この数を把握することで本市の学力の定着度を測ることができると考えこの指標を設定した。</p> | <p>平成27年度は14項目のうち県平均を上回る項目が6項目のみに留まっていたが年々上回る項目数が徐々に増え、平成31年度は9項目で上回るに至った。今後、10項目以上で上回りそれを維持することをめざし、目標値を設定した。</p> | 全14項目のうち 9項目 | 全14項目のうち 10項目 | 22 |

令和5年度の実施状況

①実施時期 R5. 4. 1～R6. 3. 31

②実施内容

- ・教育委員会では、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善のために、学校訪問（学力向上訪問）において、重点指導項目を設定して、指導助言を行った。また、埼玉県学力・学習状況調査結果の活用方法、分析方法、授業改善方法に関する教職員研修を行い、教職員の資質・能力の向上並びに児童生徒の学力向上に関わるPDCAサイクルの質が高まるよう指導した。
- ・学校では、国及び県の学力調査等の結果を踏まえ、自校の課題を明確にし、指導計画や学力向上プランを改善した。また、教育課程の確実な実施に取り組んだ。

③実施結果

令和5年5月に実施した埼玉県学力・学習状況調査において、国語の平均正答率は、小学校5年生、6年生、中学校1年生、2年生、3年生の5学年が埼玉県平均正答率を上回った。算数・数学の平均正答率は、小学校5年生、6年生、中学校2年生、3年生の4学年が埼玉県平均正答率を上回る結果となった。英語の平均正答率は、中学校2年生が埼玉県平均正答率を上回る結果となった。

- 埼玉県平均正答率を上回った。
× 埼玉県平均正答率を下回った。

| | 小4 | 小5 | 小6 | 中1 | 中2 | 中3 |
|-------|----|----|----|----|----|----|
| 国語 | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 算数・数学 | × | ○ | ○ | × | ○ | ○ |
| 英語 | | | | | ○ | × |

令和6年度以降の取り組み

①実施時期 R6. 4. 1～R7. 3. 31

②令和6年度の実施内容及び見直し内容

- ・国語科においては、どのような言語能力を身に付けさせるかを明確にし、児童生徒自らが学習に見通しをもって、学習を調整しながら主体的に学習に取り組めるような授業改善の指導をする。また、児童生徒一人ひとりが自己との対話や他者との考えを比較検討し、考えを広げ深める時間を設定するよう指導する。
- ・算数・数学科においては、学習する目的への意識付けや既習事項との相違への着目など、学習のねらいに迫る課題を児童生徒が設定できるように指導する。また、問題を焦点化し自己との対話や他者との考えを比較検討するなどして、考えを広げ深める時間を設定する。
- ・英語科においては、単元目標や本時の目標を明確に示して、生徒が見通しをもって学び、既習事項とのつながりを意識できる授業づくりを指導する。言語活動を行う目的、状況を意識した生徒に必然性のある活動、生徒同士で良さや課題を共有できる活動、個人やグループなど形態を工夫した活動を通して、考えを広げ深める時間を設定するよう指導する。
- ・令和6年度埼玉県学力・学習状況調査の結果について、学力の向上と学習方略及び非認知能力の相関関係について分析し、授業改善につなげる。

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 全14項目のうち 10項目 | 全14項目のうち 10項目 | 全14項目のうち 10項目 | 全14項目のうち 10項目 | 全14項目のうち 10項目 |
| | 全14項目のうち 10項目 | 全14項目のうち 11項目 | 全14項目のうち 10項目 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | A | <p>埼玉県学力・学習状況調査において、令和5年度の調査結果で、小学校4年生から中学校3年生までの国語、算数・数学及び英語の全項目数14項目の中で、埼玉県平均正答率を10項目上回った。令和4年度の調査結果より1項目下回ったが、目標を達成することができたことから、評価結果はAとする。</p> <p>小学校4年生から中学校3年生までの6項目のうち、県平均を上回ったのは、国語では小学校5年生と6年生、中学校1年生、2年生、3年生の5項目となった。算数・数学では小学校5年生と6年生、中学校2年生、3年生の4項目となった。また、英語では中学校2年生、3年生の2項目のうち、中学校2年生は県平均を上回った。</p> |
| | 前回評価 A | <p>埼玉県学力・学習状況調査において、令和4年度の調査結果で、小学校4年生から中学校3年生までの国語、算数・数学及び英語の全項目数14項目の中で、埼玉県平均正答率を11項目上回った。令和3年度の調査結果より1項目上回り、目標を達成することができたことから、評価結果はAとする。</p> <p>国語の6項目は全て県平均を上回った。算数・数学では小学校4年生から中学校3年生までの6項目のうち、県平均を上回ったのは小学校4年生と5年生、中学校2年生、3年生の4項目となった。また、英語では中学校2年生、3年生の2項目のうち、中学校3年生は県平均を上回った。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|--|
| | A | <p>県平均を上回る項目数の実績値が、目標値に達しているため、評価結果をAとする。</p> <p>前年度に比べ、県平均を上回る項目数は減っているものの、全ての学年で学力の向上が見られ、授業改善の取り組みの成果が出ていると考えられる。今後も、引き続き授業改善に努めてもらいたい。</p> |
| | 前回評価 A | <p>県平均を上回る項目数の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。</p> <p>県平均を上回る項目数が増えただけでなく、それぞれの学年で学力の向上が見られたことは高く評価できる。設定された目標値を達成することは重要であるが、同様に学力を向上させる取り組みを継続することも重要であると考えられる。特に、学校現場だけでは、結果に対する分析や改善策を出すのが困難であるため、教育委員会の支援をお願いしたい。</p> |

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(2) 英語教育実施状況調査において中学校第3学年におけるCEFR A1(英検3級)レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|----------------|-------------|--------------------|
| <p>中学校第3学年におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合。 生徒のコミュニケーション能力を高める外国語教育を充実させることにより、グローバル化に対応した国際社会に貢献できる人材を育成することが重要であることからこの指標を設定した。</p> | <p>グローバル人材の育成には、生徒の着実な英語力向上をめざしたPDCAサイクルを構築した英語教育の改善を行うことが重要である。そこで、義務教育最終学年の中学校第3学年において、CEFR A1(英検3級)レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数を、政府の目標値以上の70パーセントに設定し、取り組むこととした。</p> | 37.8% | 70% | 26 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>令和5年度は、現在、本市中学校で実施の「5ラウンドシステム」指導法を軸とした授業を開始して3年目となった。開始年度から引き続き今年度も、教職員研修及び研究授業(3回)、学校訪問における指導やワークシート等の提供を通して、教職員の授業改善における支援を行った。また、本指導法の効果検証及び自己の英語力を把握するための手立てとして、第2学年の全生徒に対し「GTEC(スコア型4技能検定試験)研修事業」を実施し、学習改善を図った。さらに、英語科教員は、生徒のスコア結果を基にした指導力向上研修(2回)を通して、生徒の英語力を伸ばすためのスキルアップを図った。</p> |
| ③実施結果 | <p>令和5年12月実施『令和5年度英語教育実施状況調査(文部科学省)』において、中学校第3学年におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合は、45.2%となり、前年度の44.4%を0.8%上回る結果となった。なお、「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」とは、実際に外部検定試験のCEFR A1レベル相当以上(英検3級以上、GTEC Core 520点相当以上)の級やスコア等を取得している生徒及び、それらに相当する英語力を有していると思われる生徒(英語科教員の見立て)の人数を指す。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|---|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <ul style="list-style-type: none"> 「5ラウンドシステム指導法」を軸とした教員の授業改善に中学校全学年で取り組む。 教職員研修(全2回)や研究授業等を通して、英語科教員全体の指導力向上への支援を継続して行う。加えて「英語科第3学年担当教員研修会」を4月に実施し、第3学年における5ラウンドシステムを軸とした授業の1年間の流れや、埼玉県学力検査問題(英語)の分析に基づいた具体的な受検対策指導についての研修を実施する。その他、「Brush UPサロン」の名称で、教職員の質問および意見交換を行える機会をオンラインで月に3回程度定期的の実施し、教職員を支援する。 令和6年度GTEC研修事業は、昨年度に引き続き、第2学年で実施する。また、本事業は、生徒の英語力の伸びを測ることに加えて、「教員の授業改善」を支援することを目的として行っていることから、事前・事後研修会における教員への指導と支援の充実を図る。 |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|------------|------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 40% | 50% | 60% | 65% | 70% |
| | 43.6% | 44.4% | 45.2% | | |
| | 【内訳】 取得者数 25.8% 教員見立て者数 17.8% | 【内訳】 取得者数 25.9% 教員見立て者数 18.5% | 【内訳】 取得者数 30.2% 教員見立て者数 15.0% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | B | 令和5年12月実施『令和5年度英語教育実施状況調査（文部科学省）』において、中学校第3学年における「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」の割合が、今年度目標値60%を14.8%下回った。前年度実績値より0.8%増加したが、今年度の目標値には届かなかったことから、評価結果はBとする。 |
| | 前回評価 | 『令和4年度英語教育実施状況調査（文部科学省）』において、中学校第3学年における「CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数」の割合が、目標値50%を5.6%下回った。前年度実績値より0.8%増加したが、目標値を下回っているため、評価結果はBとする。 |
| B | | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|---|
| | B | CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合において、実績値が、目標値を下回っていることから、評価結果をBとする。 「5ラウンドシステム指導法」が確立されてきたことによって、今後の数値の向上が期待できる状況にある。また、CEFR A1レベル未満の生徒の英語力を伸ばすことが、全体の英語力の向上には必須であることから、引き続き、基礎的な英語教育の充実に努めてもらいたい。 |
| | 前回評価 | CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒数の割合の実績値が、目標値を下回っていることから、評価結果をBとする。 研修を通して教員の指導力向上を図り、更なる英語教育の充実に努めてもらいたい。令和5年度は、第1学年から5ラウンドシステム指導法を受けた生徒が調査の対象になるため、数値が向上することを期待している。また、客観的に実施結果を確認できるようにするため、教員の見立てに関する目安を示すのが望ましいと考える。 |
| B | | |

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(3) 特別支援学級設置校数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|---|--------------------------|--------------------------|--------------------|
| <p>小・中学校における特別支援学級設置校数。</p> <p>国や県のインクルーシブ教育システム構築の政策のひとつに、「多様な学びの場」の充実があげられている。特別な支援を必要とする児童生徒が地元の小・中学校で学ぶ環境を作るためにも、特別支援学級の設置促進は重要であることからこの指標を選定した。</p> | <p>川口市は拠点校方式により、特別な支援を必要とする児童生徒が、課題克服に向けて少人数で効果的に学ぶことをめざしている。インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育を推進するためにも設置率70%をめざして、今後も適正規模、適正配置をめざし計画的に設置を進めていく。</p> | <p>小学校21校 中学校12校</p> | <p>小学校40校 中学校15校</p> | 32 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>令和5年度については小学校2校・中学校2校に特別支援学級を新設した。設置にあたっては、設置予定校への聞き取りや情報提供を密に行い、必要に応じて関係各課と学校訪問を行うとともに、特別支援学級の設置に向けた施設・設備面や教育経営面に関する配慮事項について指導を行い、円滑な設置に努めた。また、新設に向けた資料を積極的に提供し、人材育成についても、希望する教員が自由に受講できる「特別支援教育理解研修会」や新設校対象の「特別支援学級新設校研修」を開催した。加えて、令和5年度からは、本市独自に年次研修を実施し、本市の課題に応じた効果的な研修により、特別支援教育の理解促進及び人材育成に努めることができた。</p> |
| ③実施結果 | <p>令和5年度については、小学校2校・中学校2校に特別支援学級を新設した。特別支援学級の設置校は、小学校36校、中学校17校となり、設置率は、小学校約69%、中学校約65%、小・中学校合わせて約68%となった。</p> <p>○令和5年度の特別支援学級新設校 並木小学校・元郷南小学校・八幡木中学校・里中学校</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|---|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>特別支援学級の新設については、教室と人材の確保が大きな課題となっていることから、今後は毎年設置校数を調整していく必要がある。教室の確保については、引き続き、特別支援学級在籍児童生徒数の推移等を注視しながら、設置予定校と十分に連携を図っていく。人材の確保については、研修会の中身をさらに充実させることで、市内教職員の特別支援教育の理解促進及び人材発掘に努めていく。また、教員配置を管轄する学務課とも連携をさらに深めていく。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 小学校26校 中学校13校 | 小学校30校 中学校14校 | 小学校34校 中学校14校 | 小学校38校 中学校15校 | 小学校40校 中学校15校 |
| | 小学校30校 中学校13校 | 小学校34校 中学校15校 | 小学校36校 中学校17校 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|---|
| | A | 令和5年度は、新たに小学校2校・中学校2校に特別支援学級を設置し、設定した目標値を達成することができたことから、評価結果はAとする。 本市独自に年次研修を新たに実施するなど、人材育成に努めているが、依然として、教室と人材確保が大きな課題である。今後も、毎年の設置校数を調整しながら特別支援学級の設置を進めていく。 |
| | 前回評価 | 令和4年度は、新たに小学校4校・中学校2校に特別支援学級を設置し、設定した目標値を達成することができたことから、評価結果はAとする。今後は、教室と人材確保が大きな課題となっていることから、毎年の設置校数を調整しながら特別支援学級の設置を進めていく。 |
| A | | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|--|
| | A | 特別支援学級設置校数の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。 設置するにあたって、教室と人材の確保が課題になるため、関係各課との連携を深め、設置校の増加に努めてもらいたい。また、特別支援学級に係る教職員の質の向上は重要であるため、これまで以上に研修の充実に取り組んでもらいたい。 |
| | 前回評価 | 特別支援学級設置校数の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。 設置校によって、支援の必要な度合いが異なるため、一人ひとりの児童生徒に適切な指導ができるよう、教室と教員の確保に努めるとともに、指導する上での質の向上にも取り組んでもらいたい。また、教員の確保については、指導の継続性に配慮した教員の配置ができるよう、これまで以上に取り組んでもらいたい。 |
| A | | |

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

| 指標(4) 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合 | | | | |
|---|--|---|---|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| <p>全国学力・学習状況調査の質問紙調査において「将来の夢や目標を持っている」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>将来の夢や目標を描ける児童生徒を増やすことが児童生徒の学校生活への意欲や主体性の向上につながることから、この指標を設定した。</p> | <p>夢や目標を持つ児童生徒を増やすことが児童生徒の学校生活への意欲や主体性の向上につながることからこの目標を設定した。</p> | <p>小学校6年生 83%</p> <p>中学校3年生 73%</p> | <p>小学校6年生 毎年前年度を上回る</p> <p>中学校3年生 毎年前年度を上回る</p> | 36 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・特別活動や総合的な学習の時間、ライフスキルかわぐちの指導について、学校訪問、要請訪問、教職員研修において実践例を交えた具体的な指導・助言を行った。小学校においては、児童一人ひとりの望ましい勤労観・職業観を育てる視点、話し合いを通じて多様な価値観に触れたのちによりよい意思決定をする視点について指導助言を行った。また、中学校においては、生徒が自ら生き方を考え、主体的に進路選択できるような指導方法について指導助言を行った。 ・徳力向上推進委員会を中心としてまとめた「キャリア・パスポート参考事例集」「キャリア・パスポート実践事例集」を活用し、研修や学校訪問の際に自己実現につながる力の育成について学校へ情報提供した。また、「キャリア・パスポート映像資料」を新たに作成し、授業のポイントを映像化することで、教員がより効果的なキャリア教育の指導ができるようにした。 |
| ③実施結果 | <p>小学校6年生においては、肯定的に回答した児童が81.2%、中学校3年生においては、肯定的に回答した生徒が65.9%だった。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・市の教職員研修において、オンラインから参集型へ変更し、学級活動の授業力向上を目指した実践的な研修を行う。 ・特別活動や総合的な学習の時間、ライフスキル教育の指導について、学校訪問、要請訪問、教職員研修において実践例を交えた具体的な指導・助言を行う。小学校においては、児童一人ひとりの望ましい勤労観・職業観を育てる視点、中学校においては、生徒が自ら生き方を考え、主体的に進路選択できるような指導方法について指導助言を行う。 ・徳力向上推進委員会を中心として令和3～5年度に作成した「キャリア・パスポート参考事例集」「キャリア・パスポート実践事例集」「キャリア・パスポート映像資料」を活用し、さらに具体的な授業計画、指導方法について学校訪問や研修を通じて学校へ情報提供を行う。 ・徳力向上推進委員会において、支持的風土のある学級づくりを目指し、自己肯定感を高めるための指導法の工夫を研究していく。 |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|---|---|---|---|--|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 小学校6年生 83% 中学校3年生 73% ※令和2年度は 全国学力・学習 状況調査が中止 のため、令和元 年度の実績値を 上回ることを目 標とした。 | 小学校6年生 81.4% 中学校3年生 70.6% 前年度を上回る | 小学校6年生 79.2% 中学校3年生 65.5% 前年度を上回る | 小学校6年生 81.2% 中学校3年生 65.9% 前年度を上回る | 小学校6年生 前年度を上回る 中学校3年生 前年度を上回る |
| | 小学校6年生 81.4% 中学校3年生 70.6% | 小学校6年生 79.2% 中学校3年生 65.5% | 小学校6年生 81.2% 中学校3年生 65.9% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|---|
| | A | 令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果の比較より、将来の夢や目標を持っているかを問う質問事項において、小学校では、目標値に対して実績値81.2%とやや上回り、中学校においても目標値に対して実績値65.9%とやや上回る結果となった。小・中学校ともに目標値を達成していることから、評価結果はAとする。 |
| | 前回評価 C | 令和3年度、令和4年度の全国学力・学習状況調査の結果の比較より、将来の夢や目標を持っているかを問う質問事項において、小学校では、目標値に対して実績値79.2%とやや下回り、中学校においても目標値に対して実績値65.5%と下回る結果となった。小・中学校ともに目標値を下回り、特に中学校では5%下回っていることから評価結果はCとする。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | A | 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。 「キャリア・パスポート映像資料」を新たに作成し、授業におけるキャリア・パスポートの活用方法を教員に示すことで、実績値を上げていることは評価できる。引き続き、キャリア・パスポート等の利用促進を図り、将来の夢や目標が持てる環境づくりに取り組んでもらいたい。 |
| | 前回評価 C | 将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合の実績値が、目標値を下回り、経年変化を見ても減少傾向が続いているため、評価結果をCとする。 目標値の設定において、「毎年前年度を上回る」ことも重要なことであるが、市教委として理想とする値・割合があると考えられることから、適切な目標設定をしてもらいたい。また、さまざまな特性を持つ子どもたち一人ひとりが、夢や目標を持てるような環境づくりにも注力してもらいたい。 |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

| 指標(5) 全国学力・学習状況調査の質問紙のうち、自尊感情、規範意識を示す割合 | | | | |
|--|---|--|--|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| <p>全国学力・学習状況調査で実施している質問紙の中の「自分には、よいところがあると思いますか」「学校のきまり(規則)を守っていますか」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合。</p> <p>自尊感情、規範意識を高めることが、豊かな心を育むことにつながることから、この指標を設定した。</p> | <p>小学校においては2項目とも市内平均は、全国平均を上回るものの県平均には及ばない状況である。中学校においては、「規則を守ること」について、依然、県及び全国を下回る状況であり課題となっている。よって引き続き全国平均より高い数値となっている県平均を基準とし、県平均を上回る目標値とした。</p> | <p>「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 78.2% 中学校 72.0%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」 小学校 92.9% 中学校 95.8%</p> | <p>「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 83% 中学校 75%</p> <p>「学校のきまり(規則)を守っていますか」 小学校 95% 中学校 97%</p> | 36 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問、要請訪問、市教職員研修において、道徳教育、特別活動等、豊かな心の育成についての教員の指導力向上を図った。 ・初任者研修をはじめ、市独自で行っている各年次研修において、受講者が道徳を研修する機会を設け、授業力の向上を図った。 ・「川口市道徳の日(10月9日)」の前後に市役所1階多目的スペースにて各校の道徳教育に関する取り組みを掲示し、学校における道徳教育の取り組み内容を広く市民、保護者に発信することで、地域・家庭における道徳教育への啓発を行った。 |
| ③実施結果 | <p>令和5年度実施の全国学力・学習状況調査の結果を令和4年度のものと比較すると、「自分には、よいところがあると思いますか」の項目について小学校が4.3%(78.5%⇒82.8%)、中学校が2.4%(76.6%⇒79.0%)それぞれ増加が見られた。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・市教職員研修において、3～7年次の教員を対象に道徳科の授業力向上を目指して、実践的な研修を実施する。 ・市独自に行っている各年次研修において、受講者が道徳を研修する機会を設ける。特に、初任者研修については、理論研修と示範授業を見学し、自身に生かす研修を行う。 ・例年行っている「川口市道徳の日(10月9日)」にあわせた各校の道徳教育についての取り組みを掲示していた活動を、より広く市民や教職員に発信するため、今年度は市教育委員会HPに公開する。 ・令和6・7年度の2年間を通して「しなやかさとたくましさそなえた人材を育てる個別最適な学びと協働的な学びの充実」を研究テーマとし、実施した研究成果を市内の教職員に向けて発表し、道徳科の指導の充実を図る(今年度1年目)。 |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|---|---|---|---|---|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 79% 中学校 73% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 80% 中学校 74% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 81% 中学校 74% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 82% 中学校 74% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 83% 中学校 75% |
| | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 74.4% 中学校 73.7% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 78.5% 中学校 76.6% | 「自分には、よいところがあると思いますか」 小学校 82.8% 中学校 79.0% | | |

※目標の一部変更について

令和3年度の全国学力・学習状況調査の質問紙から、「学校のきまり(規則)を守っていますか」の質問が削除されたため、目標を「自分には、よいところがあると思いますか」のみに変更した。

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|---|
| | A | 令和4年度比で、小学校では4.3%、中学校では2.4%と、2年連続増加した。このことから、本市の児童生徒の自尊感情については、コロナ禍を経て、再度高まりつつあると捉えている。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の第5類移行後、学校教育も平常通りの活動ができるようになったことに加え、運動会や音楽会、校外学習など、様々な体験活動を行い、活躍の場や成長できたことと実感できる場が増えたことも、自尊感情の高まりの一助となったと考える。 一方で、全国平均(小83.5%、中80.0%)、県平均(小85.6%、中82.4%)は下回った。依然として、自尊感情を高めていくことは、本市の大きな課題の一つであるため、今後は今までの取り組みを更に発展させていく。令和5年度は、小・中学校ともに目標値を上回ったため、評価結果はAとする。 |
| | 前回評価 | 令和3年度と比べると小学校では4.1%、中学校では2.9%増加した。令和元年度から3年度までは低下していたことを考えると、児童生徒の自尊感情については、高まりが見られる。令和4年度はコロナ禍の日々から、徐々に普段通りの生活が戻りつつある期間であり、様々な教育活動が通常に近い形で実施された。児童生徒の活躍の場が増え、自尊感情を育成できる場が増えたことが一因であると思われる。一方で、小中学校ともに増加した数値も全国平均(小79.3%、中78.5%)、県平均(小82.0%、中81.2%)を共に下回っている。自尊感情を高めていくことは今後も本市の徳力向上の大きな課題の一つである。今後の取り組みを通じて、目標値に向けて今後も着実に児童生徒の自尊感情を高めていきたい。中学校は目標値を上回ったが、小学校は目標値を下回ったため、評価結果はBとする。 |
| B | | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|--|
| | A | 自尊感情を示す割合の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。 コロナ禍による制限が緩和され、特別活動の機会が増えたことが、実績値の向上につながったと考える。また、自尊感情を育むには、道徳教育が重要であるため、教職員研修のより一層の充実など、道徳教育の質の向上に努めてもらいたい。 |
| | 前回評価 | 自尊感情を示す割合の実績値は、中学校では目標値を上回っているが、小学校では目標値を下回っているため、評価結果をBとする。 自尊感情を育むためには、子どもたちが周囲に認められていると感じられる、居心地の良い学校・学級を作ることが重要だと考えることから、今後はこれまで以上に、多様な価値観を受け入れられる教員の養成に傾注してもらいたい。 また、令和5年度は、コロナ禍による制限が緩和されたことで、さまざまな活動が実施できていると思われるため、実績値が目標値を上回ることを期待している。 |
| B | | |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

| 指標(6) 各学年において「人権感覚育成プログラム」を活用した割合 | | | | |
|---|---|---|--|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| <p>市内小・中学校の各学年において人権感覚育成プログラムを活用した割合。</p> <p>ここまで、人権感覚育成プログラムを校内研修に取り入れることで、人権感覚を育成する教員集団の育成に努めてきた。</p> <p>今後は研修を生かし、実践に移していくために本指標を設定した。</p> | <p>人権感覚育成プログラムを校内研修で活用した割合は100%となり、教員の意識は高まってきたものと考えられる。</p> <p>しかし、授業での活用となると100%ではなく、また全ての学年においての活用はされていないのが現状である。</p> <p>今後は計画的に人権感覚を育成することが求められることから、より徹底を図るために小学校では2学年ごと、中学校では各学年での活用の割合を目標値として設定した。</p> | <p>小学校 92.3%</p> <p>中学校 88.4%</p> | <p>小学校 第1・2学年 100%</p> <p>第3・4学年 100%</p> <p>第5・6学年 100%</p> <p>中学校 第1学年100%</p> <p>第2学年100%</p> <p>第3学年100%</p> | 40 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>人権教育に係る研修会及び令和5年度から本市で実施した初任者研修、5年経験者研修において、埼玉県人権教育実施方針等に基づいた、人権感覚育成プログラムの活用を取り上げるとともに、人権感覚育成プログラムの活用の具体例などを取り扱った。</p> <p>年間指導計画の点検時に、年間指導計画に人権感覚育成プログラムの活用を位置づけるよう指導した。</p> |
| ③実施結果 | <p>各学年において人権感覚育成プログラムを活用した割合は、小学校第1・2学年が84.6%、第3・4学年が87.5%、第5・6学年が89.4%であった。中学校では第1学年が74.1%、第2学年が81.9%、第3学年が92.6%であった。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>令和6年度も年間指導計画の点検時において、人権感覚育成プログラムの活用を位置づけるように指導する。人権教育に係る研修会及び初任者研修、5年経験者研修においては、埼玉県人権教育実施方針等に基づき、人権感覚育成プログラムの活用について指導していく。</p> <p>また、特に人権教育主任研修会で埼玉県での位置づけや市内の活用状況を伝えるなどして、人権教育主任に人権感覚育成プログラムの活用と年間指導計画への位置づけを改めて指導を行う。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|--|---|--|--|--|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 小学校 第1・2学年 70% 第3・4学年 70% 第5・6学年 70% 中学校 第1学年70% 第2学年70% 第3学年70% | 小学校 第1・2学年 75% 第3・4学年 90% 第5・6学年 100% 中学校 第1学年70% 第2学年70% 第3学年70% | 小学校 第1・2学年 80% 第3・4学年 100% 第5・6学年 100% 中学校 第1学年80% 第2学年80% 第3学年80% | 小学校 第1・2学年 90% 第3・4学年 100% 第5・6学年 100% 中学校 第1学年90% 第2学年90% 第3学年90% | 小学校 第1・2学年 100% 第3・4学年 100% 第5・6学年 100% 中学校 第1学年100% 第2学年100% 第3学年100% |
| | 小学校 第1・2学年 71.2% 第3・4学年 88.5% 第5・6学年 98.1% 中学校 第1学年57.1% 第2学年57.1% 第3学年67.9% | 小学校 第1・2学年 94.2% 第3・4学年 92.3% 第5・6学年 100% 中学校 第1学年92.6% 第2学年77.8% 第3学年88.5% | 小学校 第1・2学年 84.6% 第3・4学年 87.5% 第5・6学年 89.4% 中学校 第1学年74.1% 第2学年81.9% 第3学年92.6% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | B | 小学校第1・2学年、中学校第2学年、第3学年が目標値を越えているが、令和4年度と比べ小学校第3・4学年と第5・6学年、中学校第1学年の割合が減っていることから、評価結果はBとする。 |
| | 前回評価 | 令和3年度の結果より人権感覚育成プログラムを活用した割合が大きく伸びており、目標値に達していることから、評価結果はAとする。 |
| A | | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|---|
| | B | 「人権感覚育成プログラム」を活用した割合の実績値が、目標値に達していないため、評価結果をBとする。 実際の活用状況が実績値に反映されていない可能性があることから、「人権感覚育成プログラム」の事例を示すなど、調査方法の工夫を検討する必要がある。 |
| | 前回評価 | 「人権感覚育成プログラム」を活用した割合の実績値が、目標値に達しているため、評価結果をAとする。 令和3年度と比較すると、中学校での利用が大幅に伸びているので、現在の取り組みを継続し、令和5年度も目標達成できるように努めてもらいたい。また、「人権感覚育成プログラム」を活用することで、子どもたちにどのような行動を促したいのかということについても、意識して取り組んでもらいたい。 |
| A | | |

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

| 指標(7) 小児生活習慣病予防検診受診率の割合 | | | | |
|---|--|--------------------|--------------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 肥満度30%以上の児童生徒を、小児生活習慣病予防検診の対象者としているが、対象者が当該予防検診を受診し、あらためて自らの状況を自覚することが、糖尿病や高血圧など、生活習慣病の低年齢化が進むその要因である肥満の解消につながり、検診対象者が低減していくと考えられることから、この指標を設定した。 | <p>令和元年度実績の36%増とした。(厚生労働省が、児童生徒の肥満児割合の目標値を設定しているが、その数値を基に、小児肥満の児童割合を8%とし、その目標値をめざすため。)</p> <p>※目標値の再設定について 受診対象者の中1を含めた目標値として、下記の根拠とともに再設定するもの。</p> <p>『「健やか親子21(第2次)」の指標における肥満傾向児の割合目標は、小学校5年生のうち肥満度20%以上の児童の割合を令和6年度に7.0%とするのに対し、本市の令和元年度小学校5年生の肥満度20%以上の児童の割合は9.7%である。この数値を目標に近づけるために、小児生活習慣病予防検診の受診率の目標を60.0%とする。』</p> | 59.1% | 80.7% | 42 |
| | | 44.5% (小4、中1合算) | 60.0% (小4、中1合算) | |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | R5. 10. 21～R5. 12. 22 (全3回) |
| ②実施内容 | <p>実施日：R5. 10. 21(土)／R5. 12. 21(木)／R5. 12. 22(金) 会場：上青木公民館</p> <p>検査項目：肥満度・血圧測定・血液検査・医師等の相談</p> <p>令和5年度は、土曜日を1日、給食のない日を2日に設定し、計3日間で実施した。令和5年度も従来の医師との相談に加え、家庭の食生活改善を促すため、栄養士による相談も併せて実施した。</p> |
| ③実施結果 | <p>・R5年度小学校4年生(肥満度30%以上児童数) 292人 うち受診者128人 受診率43.8%</p> <p>・R5年度中学校1年生(肥満度30%以上生徒数) 275人 うち受診者92人 受診率33.5%</p> <p>・R5年度小4・中1計(肥満度30%以上児童生徒数) 567人 うち受診者220人 受診率38.8%</p> <p>(受診希望者269名、受診者220名:内訳 男子151名 女子69名)</p> <p>《相談件数》</p> <p>・医師 38件</p> <p>・栄養士 41件</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|---|
| ①実施時期 | R6. 12月ごろ (全3回) |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>これまで、開催日における日時等を検討し何度か見直しを行ってきたが、受診率に大きな変化はなかったことから、令和6年度は検診会場を見直すこととした。これまで全3回とも同じ会場で実施してきたが、今年度から市域の南・中央・北のエリアそれぞれに会場を分散して、交通の便など考慮し検診対象者が少しでも受診しやすくなるよう見直しを図ることとした。</p> <p>また、令和3年度より継続している栄養士による相談も毎年好評なことから、受診対象者及び保護者が生活習慣を見直し、意識を変えていくための「栄養士との栄養相談」も継続していくこととする。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 47.6% | 50.7% | 53.8% | 56.9% | 60.0% |
| | 51.1% | 43.8% | 38.8% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|---|
| | B | 令和5年度の受診率は38.8%であり、達成率は目標値の72%であったが、検診時期において、各学校でインフルエンザ等感染症が流行し、学級閉鎖が相次いで報告され、受診希望者の約2割が体調不良などで欠席となったことも勘案し、評価結果はBとする。 |
| | 前回評価 B | 令和4年度小児生活習慣病予防検診の受診率は43.8%であり、令和4年度目標値の86%の達成に留まったが、受診者数については令和3年度の253人を上回ったため、評価結果はBとする。今後は、土曜日の開催回数を増やすだけでなく、受診対象者が受診しやすい日時を検討し、検診受診率の向上に努める。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | B | <p>予防検診受診率の割合の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。</p> <p>受診率向上のための工夫として、開催方法の見直し等を行ってはいるが、依然、目標値には達してない状況である。今後も受診率を上げるため、学校から保護者への周知を充実させるなど、周知方法の改善を図り、受診につなげる取り組みを進めてもらいたい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>予防検診受診率の割合の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。</p> <p>予防検診は、保護者の付き添いが必須であることから、受診率を上げるためには、保護者の意識を変えていくことが必要である。今後は、各学校での取り組みと連携し、保護者が参加しやすいイベントを同時に実施するなど、受診につなげる工夫を検討してもらいたい。</p> |

基本目標Ⅰ 子どもがのびのび学べる環境づくり

指標(8) 体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合
(小学校6年生、中学校3年生)

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|------------------------------------|------------------------------------|--------------------|
| 各学校が実施している体力テストにおいて、全国平均を上回る項目数の割合。 客観的な基準により、各学校及び児童生徒一人ひとりに応じた課題解決への取り組みや体力向上の状況を示す数値であることから、この指標を選定した。 | 体力テスト男女合計16種目のうち、小学校6年生で9種目以上、中学校3年生で11種目以上の平均値が、全国平均を上回ることをめざして、この目標値を設定した。 | 小学校6年生 56% 中学校3年生 56% | 小学校6年生 56% 中学校3年生 68% | 44 |

令和5年度の実施状況

①実施時期 R5. 4. 1～R6. 3. 31

②実施内容

測定項目 男女それぞれ8種目
①握力 ②上体起こし ③長座体前屈 ④反復横跳び ⑤20mシャトルラン ⑥50m走
⑦立ち幅跳び ⑧ボール投げ
※中学生は⑤「20mシャトルラン」については、「20mシャトルラン」か「持久走(男子1500m 女子1000m)」のどちらかを選択(川口市の中学校は全校で持久走を選択している)。
・各学校において、課題となる種目を設定し、解決に向けての取り組みを実施した。
・川口市児童生徒体力向上推進委員会において、児童生徒の体力傾向の分析や授業改善についてまとめた冊子を作成・配布し、その内容を啓発することを通して、各学校の体育授業や体育的活動の取り組みの充実へとつなげた。

③実施結果

※全国平均値と川口市平均値との比較
市平均に○印がついている種目は、全国平均を上回った種目
→小学校13/16種目、中学校12/16種目全国平均を上回った。

| | 握力 | 上体起こし | 長座体前屈 | 反復横跳び | 20mシャトル | 50m走 | 立ち幅跳び | ボール投げ |
|-------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|---------|--------|
| 小6 | | | | | | | | |
| 【男子】市 | 19.50○ | 22.73○ | 38.92○ | 46.62○ | 58.05○ | 8"92○ | 166.41○ | 22.40 |
| 全 | 19.48 | 21.63 | 36.61 | 45.51 | 57.46 | 8"94 | 166.14 | 25.39 |
| 【女子】市 | 19.53○ | 20.94○ | 44.16○ | 43.50○ | 44.63 | 9"25○ | 156.48○ | 14.42 |
| 全 | 18.66 | 19.48 | 41.14 | 42.15 | 45.08 | 9"26 | 154.71 | 15.22 |
| 中3 | | | | | 持久走 | | | |
| 【男子】市 | 34.60○ | 31.18○ | 53.71○ | 56.02○ | 6'22 | 7"55 | 218.44○ | 24.93○ |
| 全 | 34.53 | 28.63 | 49.23 | 56.01 | 6'19 | 7"49 | 217.30 | 23.80 |
| 【女子】市 | 25.46○ | 26.27○ | 54.59○ | 48.88○ | 4'56 | 8"69 | 177.53○ | 14.87○ |
| 全 | 25.24 | 24.00 | 49.39 | 48.59 | 4'55 | 8"68 | 176.01 | 14.05 |

令和6年度以降の取り組み

①実施時期 R6. 4. 1～R7. 3. 31

②令和6年度の実施内容及び見直し内容

- ・令和5年度川口市児童生徒体力向上推進委員会で報告された、市の重点課題種目(小学校:20mシャトルラン・ボール投げ 中学校:50m走・持久走)や、優れた授業実践事例を周知し、令和6年度の体力向上へとつなげる。
- ・川口市の課題である「運動好きな児童生徒の割合が低い」点の改善を目標とし、主体的に運動に親しむ児童生徒の育成に努め、結果として体力の向上を図る。

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 小学校6年生 56% | 小学校6年生 56% | 小学校6年生 56% | 小学校6年生 56% | 小学校6年生 56% |
| | 中学校3年生 68% | 中学校3年生 68% | 中学校3年生 68% | 中学校3年生 68% | 中学校3年生 68% |
| | 小学校6年生 38% | 小学校6年生 50% | 小学校6年生 81% | | |
| | 中学校3年生 56% | 中学校3年生 44% | 中学校3年生 75% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | A | <p>小・中学校ともに、目標値を達成できたことから、評価結果はAとする。</p> <p>令和5年度は運動の制限も解除されたが、全国的には、体力は依然として低下傾向であるが、その中であって、本市の各学校の実績値が目標値を大きく上回った理由としては、体育授業を中心に、体力向上に努めた成果と捉える。</p> <p>一方、前年度より差は縮まってはいるものの、小学校「20mシャトルラン」「ボール投げ」、中学校「持久走」「50m走」は、全国平均を下回る傾向にある。令和6年度については、川口市の課題である「運動好きな児童生徒の割合が低い」点の改善を図り、主体的に運動に親しむ児童生徒の育成に努め、結果として体力の向上を図っていききたい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>小・中学校ともに、目標値を達成することができなかったことから評価結果はBとする。</p> <p>しかしながら、全国的にも、埼玉県全体でも令和3年度から令和4年度にかけては体力の低下がみられており、その中で小学校の全国平均を上回った割合が38%から50%に上昇したことは、改善の兆しがみられたと言える。</p> <p>中学校については、全国平均を上回った割合が低下し、特に走運動にかかる種目では全国平均値との差が大きいため、取り組みの見直しが必要である。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|--|
| | A | <p>体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合の実績値が、目標値を上回っていることから、評価結果をAとする。</p> <p>授業での取り組みが、体力向上につながっていることは、高く評価できる。ただし、体力向上は授業での取り組みだけでは不十分であることから、川口市に縁のあるスポーツ選手と交流の場を設けるなど、運動好きな児童生徒を増やす工夫を、さらに各学校で取り組んでもらいたい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>体力テストの全国平均を上回っている項目数の割合の実績値が、目標値に達していないため、評価結果をBとする。</p> <p>コロナ禍の制限により、体育の授業だけでなく、各学校の体力向上のための活動が制限されていたことにより、体力テストの結果が低下したことは致し方ないと考え。令和5年度は、制限が大幅に緩和されたため、遊びも含め、日常的に運動する環境をつくり、習慣として身に付かせるようにしてもらいたい。</p> |

基本目標 I 子どもがのびのび学べる環境づくり

| 指標(9) 高等学校卒業後、大学への進学者と国公立大学進学者の割合 | | | | |
|---|--|---|--|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| <p>市立高等学校の卒業生のうち、現役生の大学進学者及び国公立大学へ進学した生徒の割合。 大学への進路指導を強く推し進めていくことからこの指標を設定した。</p> | <p>市立高等学校が、国公立大学進学型の教育課程を編成し、約90%の生徒が4年制大学進学希望であることから設定した。</p> | <p>令和元年度卒業生 4年制大学進学者 60.4%</p> <p>国公立大学進学者 3.5%</p> | <p>大学進学者 95%</p> <p>国公立大学進学者 15%</p> | 46 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国人講師を常駐させ、グローバル社会に対応する教育の推進及び教育の充実を図った。 ・大学等教育研究機関との連携による学習支援（放課後等自習室・理数教育の充実、ICT授業サポート）を図り、生徒の学力向上に努めた。 ・給付型奨学金を活用し、生徒が学習の機会に臨むことのできる環境整備を整えた。 ・令和4年度より指定のスーパーサイエンスハイスクール校としての取り組みを通して、先進的な理数教育の充実を図った。 |
| ③実施結果 | <p>令和6年3月 大学進学割合（大学進学者数／卒業生数） 90.8%（356人／392人）</p> <p>国公立大学進学割合（国公立大学進学者数／卒業生数） 13.5%（53人／392人）</p> <p>※＜参考＞ ・大学合格者延べ数 R4年度480人 → R5年度 615人 ・国公立大学合格者延べ数 R4年度 43人 → R5年度 59人</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|---|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>※令和5年度実施内容について、全てを継続することとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人講師常駐による、グローバル社会へ対応する教育を令和6年度も効果的に継続していく。 ・学力向上のための学習支援の重要性を踏まえ、取り組みを令和6年度も引き続き継続していく。 ・スーパーサイエンスハイスクール指定校として、理数教育の一層の充実を図るとともに、学校全体での探究的な学習活動の推進に取り組んでいく。 |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 大学進学者 85% 国公立大学進学者 10% | 大学進学者 85% 国公立大学進学者 11% | 大学進学者 89% 国公立大学進学者 13% | 大学進学者 92% 国公立大学進学者 14% | 大学進学者 95% 国公立大学進学者 15% |
| | 大学進学者 78.0% 国公立大学進学者 9.2% | 大学進学者 82.1% 国公立大学進学者 7.8% | 大学進学者 90.8% 国公立大学進学者 13.5% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | A | 令和5年度卒業生は、大学への進学意欲が高く、大学進学に特化した講習や、長期休業中補講、放課後等自習室など様々な学習支援策により、大学進学率が高くなった。また、国公立大学進学率も目標値を上回ったことから、評価結果はAとする。 |
| | 前回評価 B | 4年制大学への進学率は増加したものの、合格者延べ数及び国公立大学への進学者数は令和3年度より減少したため、評価結果はBとする。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|--|
| | A | 大学への進学者と国公立大学進学者の割合の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。 大学進学に特化した講習や、長期休業中の補講などの学習支援策を実施したことで、大学進学率の上昇につなげたことは評価できる。引き続き、入学した生徒が望んだ進路に進めるよう、取り組んでもらいたい。 |
| | 前回評価 B | 大学への進学者と国公立大学進学者の割合の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。 スーパーサイエンスハイスクール校としても期待が非常に大きいので、入学した生徒が望んだ進路に進めるような教育を実施してもらいたい。また、進路のことだけではなく、学校生活自体が充実して、より良いものになるように取り組んでもらいたい。 |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

| 指標(1) 教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合 | | | | |
|--|--|--|-------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 採用2年次～4年次の教員における教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合。 経験豊富な教職員の大量退職期に伴う若手教員の増加により、一層の資質向上が必要であることから、この指標を設定した。 | 本研修は、意欲が高く、且つ学校長の推薦を受けた教員に対して行う研修である。2年次以降の研修の機会を確保し、各教科等における指導法や学級経営等の資質向上を目標としている。このことから2年次～4年次の間に教育研修生研修「教育指導パワーアップ研修」の70%の受講をめざし、この目標値を設定した。 | 47% 2年次～4年次の 教員数350名 研修受講者数 165名 | 70% | 54 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | 6月2日・10月11日・1月16日 |
| ②実施内容 | <p>第1回 6月2日 教育研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> ①講義「学級経営の基本・学級づくりについて」 ②グループ協議 ③自身の学級経営の目標設定 <p>第2回 10月11日 オンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ①講義「学級経営の実践例について」 ②グループ協議（自身の目標に向けて進捗状況） <p>第3回 1月16日 教育研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> ①自身の学級経営について実践発表 ②講評 ③講義「よりよい進級・進学に向けた学級の締め括り方を考える」 |
| ③実施結果 | <p>令和5年度の研修対象者314名のうち、本研修を受講した教員は172名であり、受講率は54.8%となった。</p> <p>令和5年度は、自分自身の学級経営の課題に向き合えるよう、第1回で個々の目標を設定し、第3回で振り返りができる内容とした。研修の満足度調査では、「満足できた」「概ね満足できた」を合わせると毎回100%に近い値であり、満足度は非常に高かった。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6.5月～R7.1月（全3回） |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>令和5年度は、内容を学級経営中心の研修に改め、全3回の研修を行った。令和6年度も継続していく。初任者研修を市内で受講した職員が2年次となるため、より日々の実践で役に立つ専門性の高い研修となるよう、次の工夫を加える。</p> <p>毎回の研修では、小・中学校の教職員が協議をする場面を意図的に設定し、小・中学校の教職員がお互いの良さを実感できる内容とする。また、対象者についても初任者研修を終えた後、できるだけ早期に学級経営及び教科指導についての資質・能力を教員に身につけさせることが重要であると考え、2～3年目の教員を主な対象として実施していく。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|--------------------|--------------------|--------------------|-----|-----|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 50% | 60% | 70% | 70% | 70% |
| | 49.7% 160名/322名 | 54.4% 180名/331名 | 54.8% 172名/314名 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|---|
| | B | <p>令和5年度の研修対象者314名のうち、本研修を受講した教員は172名であり、受講率は54.8%となった。目標値を超えることはできなかったが、令和5年度からは、教職員の研修の実態を踏まえながら研修の内容を精査することができ、受講者が現場で生かしやすい内容となったことから、評価結果はBとする。</p> <p>受講者が自分自身の成長のために自己の1年間の目標を設定し、目標達成のためにどのように改善する必要があるのかについて考え、受講者同士の対面による協議や発表する研修を実施することができた。研修の満足度調査では、「満足できた」「概ね満足できた」を合わせると毎回ほぼ100%に近い値であり、満足度は非常に高かった。</p> |
| | 前回評価 B | <p>令和4年度の研修対象者331名のうち、本研修を受講した教員は180名であり、受講率は54.4%となった。</p> <p>目標値を超えることはできなかったが、指標設定時の47%と比較すると年々向上傾向にあるため、評価結果はBとする。</p> <p>これまでの年次研修ではできなかった受講者同士の対面による協議を中心とした研修内容を実施できたことで、研修の満足度調査では、「満足できた」「概ね満足できた」を合わせると毎回ほぼ100%に近い値であり、満足度は非常に高かった。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|--|
| | B | <p>教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。</p> <p>多くの教員が悩みを抱える、学級経営を中心とした研修を行ったことは、効果的である。小学校の教員に比べ、中学校の教員の参加率が低いので、中学校の教員に対し、研修への参加を促してもらいたい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>教育研修生「教育指導パワーアップ研修」受講修了者の割合の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。</p> <p>令和5年度から研修内容を、学級経営を中心としたものに変更したことは、経験の浅い教員に対して、非常に有効であると考えられる。また、実施回数を全3回に変更したことで、より多くの教員が参加しやすくなったと考えられるので、小・中の教員の交流を含め、内容の深まりを期待したい。</p> |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(2) いじめの解消率

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|----------------------------------|--------------------------------|--------------------|
| いじめ認知件数に対する解消率(翌年度6月末実績値)。 いじめは重大な人権侵害であり、決して許されるものではない。いじめの解消に向けて、早期発見・早期対応をすることが重要であることからこの指標を選定した。 | 一人ひとりの児童生徒にとって、明るく安心して学べる学校であるためには、認知したいじめを全て解消することが不可欠であるため、この目標値を設定した。 | 小学校 94.1% 中学校 93.2% | 小学校 100% 中学校 100% | 60 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>「いじめ認知定期報告」により、各小・中学校におけるいじめの認知件数・指導の経緯・解消日等を集約し、実態把握に努めるとともに、必要に応じて学校への聴き取りや生徒指導担当指導主事が学校を訪問し、いじめの解消に向けた指導・助言を適切に行い、いじめ問題の解決に向けて各学校を支援した。</p> <p>生徒指導担当指導主事による学校訪問や学校からの要請に基づく要請訪問を実施し、各学校が抱えている課題に対する指導・助言を行った。</p> <p>いじめ問題に対して、法やガイドラインに則り、組織的に対応していくことなどを「いじめ対応教員研修会」等、各種研修会を通して周知・徹底を図った。併せて、いじめ対応事例集の効果的な活用やいじめ防止対策推進法に基づく適切ないじめ認知及び対応の在り方について、全教職員による共通理解・共通行動が図れるよう周知を図った。また、スクールロイヤーや警察等と連携を図ることで具体的な対応に繋げることができた。</p> <p>児童生徒が主体となり、「いじめゼロ活動」を行うことで、いじめを生まない環境づくり及びいじめをしない態度や能力の育成等、いじめを許さない気運を醸成し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・適切な対処を目指した。</p> |
| ③実施結果 | <p>令和5年度はいじめの認知件数は、小学校4,623件、中学校1,064件で、いじめの解消率は令和6年6月末において小学校が79.7%、中学校が80.9%であった。</p> <p>いじめの認知件数は中学校において増加傾向にあるが、各学校が「いじめの定義」に基づき、積極的にいじめを認知し、早期発見・早期対応に向けて組織的に取り組んでいることが伺えた。解消率は、小・中学校とも低下傾向となっているが、3ヶ月経過後も経過観察及び継続指導を丁寧に行っている。各学校において、いじめ問題の情報を組織で共有しており、全ての事案を組織で対応する意識が高まっている。</p> <p>関係機関と連携を図ることで、学校のみで抱えることなく、できること・できないことややるべきこと等について整理した上で対応に繋げることができた。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>「いじめ認知定期報告」について、認知・解消確認等の漏れを防ぐとともに、各学校で実態を分析し、検証・検討ができるよう見直しを図る。</p> <p>児童生徒のいじめの予防と青少年健全育成を図る取り組みとして、「いじめ予防ピンクピンバッジ」の着用を実施する。各学校の児童会役員、生徒会役員が中心となり、いじめの予防を呼びかけるとともに、役員以外の児童生徒にも取り組みの目的を理解させ、いじめをしない、させない、許さない、見逃さない意識を醸成する。着用期間は、6月、9月、11月、2月である。また、年2回開催している「いじめゼロサミット」について、役員以外の児童生徒にも配信方法や資料の配布等、開催方法の改善を図る。</p> <p>「いじめ対応教員研修会」における指導内容をこれまでの法的な知識や法に基づく対応を中心としつつ、事例研修も取り入れる等、教職員や学校の実践力の向上を図るとともに、各学校における事例を基に作成した「川口市いじめ対応事例集」を研修の中で効果的に活用していく。</p> <p>学校・家庭・関係機関等との連携を図り、いじめの解消と再発防止に努める。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 小学校 100% | 小学校 100% | 小学校 100% | 小学校 100% | 小学校 100% |
| | 中学校 100% | 中学校 100% | 中学校 100% | 中学校 100% | 中学校 100% |
| | 小学校 91.6% | 小学校 93.5% | 小学校 79.7% | | |
| | 中学校 88.8% | 中学校 92.9% | 中学校 80.9% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | C | <p>令和5年度のいじめの認知件数は、小学校4,623件、中学校1,064件であり、中学校において昨年度よりも増加した。各学校が初期段階や軽微なものも含めて積極的に認知し、丁寧に対応している状況や疑いの時点で重大事態として対応するなど、見逃しゼロへの意識が伺えた。</p> <p>いじめの解消率は、令和6年6月末において、小学校が79.7%、中学校が80.9%となっており、目標値を下回る結果となった。各学校において丁寧な対応と見届けを行っており、安易に解消とはせず、事案によっては経過観察となっているケースも見受けられる。</p> <p>昨年度の数値を下回っていることや学校によって認知や解消に差が見られること、また、全ての児童生徒を対象とした未然防止に向けた取り組みの他、早期発見、早期対応、丁寧な見届けにも、より一層力を注いでいく必要があることから、評価結果はCとする。</p> |
| | 前回評価 C | <p>令和4年度のいじめの認知件数は、小学校5,634件、中学校939件となっており、昨年度から大幅に増加した。各学校が初期段階や軽微なものも含めて積極的に認知し、丁寧に対応している状況が伺えた。</p> <p>いじめの解消率は、令和5年6月末において小学校が93.5%、中学校が92.9%となっており、目標値を下回る結果となった。各学校において丁寧な対応と見届けを行っており、安易に解消とはせず、事案によっては経過観察となっているケースも見受けられる。</p> <p>昨年度の数値は上回っているものの、学校や学級によって認知や解消に差が見られること、また、全ての児童生徒を対象とした未然防止に向けた取り組みの充実にも力を注いでいく必要があることから、評価結果はCとする。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | C | <p>いじめの解消率の実績値は、目標値を下回っており、また、前年度よりも解消率が低下していることから、評価結果をCとする。</p> <p>解消できていない事案が多く残っている。いじめの内容が多様化していることから、より丁寧な見届けを行った結果であることは理解できるものの、解消に向けて、引き続き対応を求める。また、児童生徒と教員の捉え方の違いで認知できていないいじめもあると思われるので、学校訪問等での指導を通して、丁寧な対応に取り組んでもらいたい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>いじめの解消率の実績値は、目標値を下回っているものの、前年度の実績値を着実に上回っているため、評価結果をBとする。</p> <p>いじめの対応事例集を作成していることは評価できる取り組みである。事例集では各教員に気付きを促す構成となっているが、事例として示すのであれば、どのようにいじめが終結したのか、その結果まで記しておくべきなのではないかと考える。また、実践的な活用に向けて、内容別に分類し、対応事例が容易に検索できるようにキーワードでまとめるなどの工夫を検討してもらいたい。</p> |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(3) 不登校児童生徒の割合

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|---|---|------------------------------|--------------------|
| <p>全児童生徒数に対するの不登校児童生徒の割合。 平成27年度以降、少しずつ改善が図られてきたが、平成29年度から不登校傾向の割合が増え続けている。このことから不登校児童生徒を減少させることが喫緊の課題であると捉え、学校や関係機関と連携を図りながら現状値からの改善を進めることをめざし、本数値を設定した。</p> | <p>適切なサポートにより、不登校児童生徒の減少をめざすため「現状値を下回る」とした。</p> | <p>小学校 0.74%</p> <p>中学校 4.25%</p> | <p>現状値を下回る (前年度を下回る)</p> | <p>62</p> |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問を実施し、指導・助言を行った。また、令和4年度までは芝園教室のみであった適応指導教室（令和6年度より教育支援センターに名称変更）を、令和5年度から新たに朝日教室を開室した。モデル校において校内教育支援センター（ほっとルーム）を設置し、不登校児童生徒への個に応じた適切な支援ができるようにした。さらに、訪問相談員や、スクールソーシャルワーカーを積極的に活用し、家庭及び学校関係者への適切な支援が行えるようにした。</p> |
| ③実施結果 | <p>令和5年度3月末時点における不登校による欠席日数が30日以上ある児童生徒数（病気・経済的な理由・その他による欠席は除く）は1,602人で、小学校では575人（全体の1.99%）、中学校では1,027人（全体の7.43%）であった。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問を実施し、指導・助言を行っていく。また、適応指導教室について、名称を「教育支援センター」に変更し、芝園教室、朝日教室ともに充実した支援を行う。16校のモデル校において校内教育支援センター（ほっとルーム）を設置し、不登校児童生徒への個に応じた適切な支援ができるようにする。さらに、訪問相談員や、スクールソーシャルワーカーを積極的に活用し、家庭及び学校関係者への適切な支援が行えるようにしていく。年3回不登校児童生徒支援協議会を実施し、小・中学校における不登校の未然防止及び不登校児童生徒の支援に関し、不登校対策の総合的かつ体系的な支援のあり方について検討を進めていく。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 小学校 0.78% | 小学校 0.86% | 小学校 1.20% | 小学校 1.99% | 現状値を下回る (前年度を下回る) |
| | 中学校 4.02% | 中学校 4.81% | 中学校 5.97% | 中学校 7.43% | |
| | 現状値を下回る (前年度を下回る) | 現状値を下回る (前年度を下回る) | 現状値を下回る (前年度を下回る) | 現状値を下回る (前年度を下回る) | |
| | 小学校 0.86% | 小学校 1.20% | 小学校 1.99% | | |
| | 中学校 4.81% | 中学校 5.97% | 中学校 7.43% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | C | 不登校児童生徒の割合が令和4年度より増加し、目標値に達していないことから、評価結果はCとする。これは、オンラインにおける学習が充実していく一方で、登校しなくてもオンラインで学習できる状況があることや、不登校児童生徒の状況や家庭の教育に関する考え方が多様化してきたことが要因であると考えられる。不登校児童生徒に対して、一人ひとりの状況を適切に見極め、個に応じた適切な支援ができるよう、学校と関係機関との連携を一層図ることが重要であると考えられる。さらに、新たな不登校を生み出さないための取り組みも推進していく。 |
| | 前回評価 | 不登校児童生徒の割合が令和3年度より増加し、目標値に達していないことから評価結果はCとする。これは、オンラインにおける学習が充実していく一方で、登校しなくてもオンラインで学習できる状況があることや、不登校児童生徒の状況や家庭の教育に関する考え方が多様化してきたことが要因であると考えられる。不登校児童生徒に対して、一人ひとりの状況を適切に見極め、個に応じた適切な支援ができるよう、学校と関係機関との連携を一層図ることが重要であると考えられる。さらに、新たな不登校を生み出さないための取り組みも推進していく。 |
| C | | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|--|
| | C | 不登校児童生徒の割合の実績値が、目標値に達していないため、評価結果はCとする。 不登校児童生徒の数が増えている中、オンラインで学習できる環境を提供していることは評価できるが、オンラインの授業準備などを行うことで、教員の負担が増加していることが懸念される。教員が、不登校児童生徒一人ひとりと向き合うことができるよう、教育委員会として、オンライン授業のサポートなど、教員の負担を減らす手立てを検討してもらいたい。 |
| | 前回評価 | 不登校児童生徒の割合の実績値が、目標値に達していないため、評価結果をCとする。 不登校の理由については、多様化していることから、個別の状況把握や記録を充実させ、解消に向け、よりきめ細かな不登校解消への取り組みにつなげてもらいたい。また、社会状況の変化により、学び方についても多様化していることは承知しているが、通学することで、学校生活という集団行動を通して、社会性を学ぶことができるなどの利点もあるため、目標値を達成できるよう、引き続き取り組んでもらいたい。 |
| C | | |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

| 指標(4) 不登校児童生徒への指導の結果、好ましい変化がみられた割合 | | | | |
|---|--|----------------------|----------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| <p>文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等児童生徒指導上の諸課題に関する調査」における不登校生徒の中で支援の結果好ましい変化がみられた生徒の割合。</p> <p>不登校に対する社会の見方が「問題行動」から「理解し受容するもの」へと変化していることから、学校が行っている不登校児童生徒への支援において、社会的に自立するための力を身に着けることが必要であるため、この指標を選定した。</p> | <p>中学生という心身ともに不安定な思春期の不登校生徒に対し、学校は様々な支援策を考え、他機関と連携しながら対応を行っている。不登校は「誰にでも起こり得るもの」とはいえ、何らかの好ましい変化をめざしていることから、この目標値を設定した。</p> | <p>中学校 38.5%</p> | <p>前年度を上回る</p> | <p>62</p> |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|--|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問を実施し、指導・助言を行った。また、令和4年度までは芝園教室のみであった適応指導教室（令和6年度より教育支援センターに名称変更）について、令和5年度から新たに朝日教室を開室したり、モデル校において校内教育支援センターを設置し、不登校児童生徒への個に応じた適切な支援ができるようにした。さらに、訪問相談員や、スクールソーシャルワーカーを積極的に活用し、家庭及び学校関係者への適切な支援が行えるようにした。</p> |
| ③実施結果 | <p>指導の結果、登校の頻度が増したり、全く登校できなかつたが登校できるようになったりしたのは、小学校で216人（不登校児童の37.6%）、中学校では212人（不登校生徒の20.6%）であった。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>各学校から報告のあった月例不登校調査に基づき、不登校並びに不登校傾向にある児童生徒がおり、生徒指導上の課題がある学校に対して、生徒指導担当指導主事による学校訪問を実施し、指導・助言を行っていく。また、不登校児童生徒理解研修会を実施し、教職員向けに不登校児童生徒支援についての理解を図る。市内16校のモデル校において校内教育支援センター（ほっとルーム）を設置し、不登校児童生徒への個に応じた適切な支援ができるようにする。さらに、訪問相談員や、スクールソーシャルワーカーを積極的に活用し、家庭及び学校関係者への適切な支援が行えるようにしていく。年3回不登校児童生徒支援協議会を実施し、小・中学校における不登校の未然防止及び不登校児童生徒の支援に関し、不登校対策の総合的かつ体系的な支援のあり方について検討していく。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|---------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 中学校 29.0% 前年度を上回る | 中学校 21.9% 前年度を上回る | 中学校 17.9% 前年度を上回る | 中学校 20.6% 前年度を上回る | 前年度を上回る |
| | 中学校 21.9% | 中学校 17.9% | 中学校 20.6% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | A | 指導の結果、登校できるようになった生徒数の割合は前年度より増加し、目標値を達成できたことから、評価結果はAとする。 スクールソーシャルワーカーの活用により、不登校の児童生徒が放課後登校ができるようになったり、前年度不登校だった児童生徒が、新年度から登校できるようになった等の事例がある。今後も、児童生徒の社会的自立を支援していくために、個に応じた適切な支援ができるよう、学校と関係機関との連携を図っていく。 |
| | 前回評価 C | 指導の結果、登校できるようになった生徒数の割合は前年度より減少し、目標値を達成できなかったことから、評価結果はCとする。不登校生徒の状況や家庭の教育に対する考え方がさらに多様化してきたことが要因であると考え。 教育委員会としては、児童生徒の社会的自立を支援していく上で、個に応じた適切な支援ができるよう、学校と関係機関との連携を一層図ることが重要であると認識している。さらに、新たな不登校を生み出さないための取り組みも推進していく。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|---|
| | A | 不登校児童生徒への指導の結果、好ましい変化がみられた割合の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。 何をもって好ましい変化とするのか、一律に線引きはできないが、オンライン授業への参加も好ましい変化だと思われることから、評価基準の再検討をしてもらいたい。また、ほっとルーム等をさらに活用できるよう、人員の確保に努めてもらいたい。 |
| | 前回評価 C | 不登校児童生徒への指導の結果、好ましい変化がみられた割合の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をCとする。 学校現場だけでは取り組みに限界があるため、家庭の意識の変化を促すよう、関係諸機関と連携を深めて対応してもらいたい。また、スクールソーシャルワーカーが担う役割が重要であると考えられるため、どのくらいの不登校生徒に好影響を与えられたかについても、今後は把握してもらいたい。 |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(5) 地域の方に勉強や運動を教えてもらっていると 感じている児童の割合(小6)

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|---|----------------|----------------------|--------------------|
| <p>埼玉県学力・学習状況調査における児童質問紙調査「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、いっしょに遊んでもらったりすることがありますか」への好意的回答をしている児童の割合。</p> <p>子どもの成長をサポートする基盤づくりに向けて、学校だけではなく家庭・地域にもより積極的に関わってもらう必要性を感じ、その成果をみとめるために埼玉県学力・学習状況調査における児童質問紙の本項目を指標として設定した。</p> | <p>コミュニティ・スクール等の活動を通して5年間をかけて基盤の整備推進を図り、現状値を上回ることをめざし設定した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指標の定義の変更</p> <p>令和4年度から埼玉県学力・学習状況調査における児童質問紙調査「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、いっしょに遊んでもらったりすることがありますか」の質問項目が削除されたため、令和5年度より、学校へ本市独自に実施したアンケートに定義を置き換える。</p> </div> | 41.8% | 現状値を上回る (前年度を上回る) | 68 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に対しての気持ちを育む教育を計画的に実施するため、児童のために力を貸してくれている地域の方の気持ちを児童が感じられる活動を実践するよう指導・助言をした。 ・教職員研修にて、地域の方とのかかわりを年間指導計画や単元計画に位置付け、計画的に取り組むよう指導・助言をした。 ・社会科、生活科、家庭科、総合的な学習の時間、クラブ活動等で、地域や家庭と連携・協働して授業を行えるようサポートプランの活用を推進した。 |
| ③実施結果 | <p>指標となっている埼玉県学力・学習状況調査の児童質問紙調査「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、いっしょに遊んでもらったりすることがありますか」の質問項目は、令和4年度調査より削除されたが、学校へアンケートを依頼して調査を実施した。市内小学校第6学年3,916人から回答があり、「はい」は1,811人で回答者全体の46.2%となり、前回調査39.5%を6.7%上回った。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|---|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し、子どもたちと地域の交流も、コロナ禍以前の状況に戻ってきている。令和5年度は感染対策を講じながらのスタートであったが、令和6年度は制限のないスタートとなり、前年度よりもさらに、交流を生かした学習が可能である。教職員研修、学校訪問を通して、より効果的な交流の在り方を指導・助言し、よりよい教育活動につなげていく。 ・各学校の優れた実践を、教職員研修、学校訪問を通して、多くの学校に広めていき、各学校が特色を生かした活動に発展させていけるよう指導・助言していく。 ・ICTを活用した交流など、交流の方法も工夫し、さらに効果の高い教育活動を実践できるよう、適切な指導・助言に努めていく。 |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|----------------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 39.1% 現状値を上回る (前年度を上回る) | 39.5% 現状値を上回る (前年度を上回る) | 39.5% 現状値を上回る (前年度を上回る) | 46.2% 現状値を上回る (前年度を上回る) | 現状値を上回る (前年度を上回る) |
| | 39.5% | — | 46.2% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | A | <p>新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したこともあり、子どもたちと地域との交流も、以前の状況に戻ってきている。各学校が、それぞれの特色を生かした教育活動を工夫しながら実施していることがうかがえる。</p> <p>市内全52の小学校から3,916人分の回答があり、「はい」は1,811人で回答者全体の46.2%となり、前回調査を大きく上回った。目標である「現状値を上回る」を達成できていることから、評価結果をAとする。</p> |
| | 前回評価 — | <p>指標となっている埼玉県学力・学習状況調査の令和4年度の児童質問紙調査に、「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、いっしょに遊んでもらったりすることがありますか」の質問項目が削除されたため評価なし。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|---|
| | A | <p>地域の方に勉強や運動を教えてもらっていると感じている児童の割合の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。</p> <p>学力アップ教室などの公募について、ホームページだけでなく、近隣の大学などに周知することで、地元へ貢献したい人材の獲得につながると考える。</p> <p>また、地域との関わりをより実感し、感謝の気持ちが育まれるよう、地域人材と関わる際に、子どもたちへの紹介方法を工夫するなど、取り組んでもらいたい。</p> |
| | 前回評価 — | <p>地域の方に勉強や運動を教えてもらっていると感じている児童の割合は、指標となる質問が削除されたため、評価結果をなしとする。</p> <p>指標となる質問が削除されたことは致し方ないが、評価ができない状態のままにしておくのは好ましくないと考える。市教委独自の調査を実施するなど、何らかの調査方法を確立した上で、令和5年度は実施してもらいたい。</p> |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(6) 地域・社会をよりよくするための参画意識 (中3)

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|----------------|----------------------|--------------------|
| <p>全国学力・学習状況調査生徒質問紙「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対して好意的回答を示している生徒の割合。</p> <p>子どもの成長をサポートする基盤づくりに向けて、学校だけではなく家庭・地域にもより積極的に関わってもらうことが、生徒にとっての参画意識の醸成につながると捉え、全国学力・学習状況調査における生徒質問紙の本項目を指標として設定した。</p> | <p>コミュニティ・スクール等の活動を通して5年間をかけて基盤の整備推進を図り、現状値を上回ることをめざし設定した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指標の定義の変更</p> <p>令和5年度から全国学力・学習状況調査生徒質問紙「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」が「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に質問項目が変更されたため、定義を置き換える。</p> </div> | 35.3% | 現状値を上回る (前年度を上回る) | 68 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <ul style="list-style-type: none"> 川口市社会福祉協議会主催の「ボランティア学習・福祉教育情報連絡会議」において、各校のボランティア・福祉担当者を対象に「令和5年度ボランティア・福祉教育における方向性」の講義を行い、体験学習を年間指導計画に位置付けることを周知した。 |
| ③実施結果 | <p>指標の定義は全国学力・学習状況調査生徒質問紙「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」であるが、令和5年度の調査では「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」と文言が変更された。そのため、指標の定義とは異なるが、置き換えて実施結果とした。令和5年度の結果は67.0%であり、令和4年度の35.6%から31.4%上回る結果であった。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <ul style="list-style-type: none"> 学校訪問や、生活科・総合的な学習の時間研修会において、地域と関わりをもつ学習活動の好事例についての情報提供を行う。 川口市社会福祉協議会や青少年ボランティア育成委員会と連携し、学校現場でのボランティア・福祉教育を推進していく。 |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|---|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 35.3% | 34.3% | 35.6% | 67.0% | 現状値を上回る (前年度を上回る) |
| | ※令和2年度は 全国学力・学習 状況調査が中止 のため、令和元 年度の実績値を 上回ることを目 標とした。 | 現状値を上回る (前年度を上回る) | 現状値を上回る (前年度を上回る) | 現状値を上回る (前年度を上回る) | 現状値を上回る (前年度を上回る) |
| | 34.3% | 35.6% | 67.0% | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|---|
| | A | 令和5年度は67.0%の結果となり、指標に関わる調査の文言が変更された影響もあると思われるが、目標値を31.4%上回ったことから、評価結果はAとする。 各学校のボランティア・福祉担当の教員が集まる会議において、ボランティア活動・福祉体験活動の学習の位置づけについて講義を行ったことにより、各校で体験活動が多く実施されるようになった。今後も、実施内容がさらに充実するよう努めていく。 |
| | 前回評価 | 令和4年度は35.6%の結果となり、目標値を1.3%上回ったことから、評価結果はAとする。 GIGAスクール端末を活用するとともに、感染予防対策を講じた上で、児童生徒や地域の方の安全面を考慮し、各学校工夫して取り組んだ。今後も地域への参画意識を醸成する教育を推進し、さらに結果が向上するよう努める。 |
| A | | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|---|
| | A | 地域・社会をよりよくするための参画意識の実績値が、目標値を大幅に上回っているため、評価結果をAとする。 教員が指導に努めることも大切だが、地域・社会をよりよくするための参画意識に直接訴えかけるような施策の検討が必要だと考える。例えば、川口市には様々なボランティア支援事業があるので、関係各課と連携し、活動を通して、自らも地域をよくするために何かをしようとする意識につながるよう、引き続き、取り組んでもらいたい。 |
| | 前回評価 | 地域・社会をよりよくするための参画意識の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。 GIGAスクール端末を活用し、ゲストティーチャーから話を聞くことは、非常に有意義だと考える。オンラインであるため、より多くの学校が参加できるような仕組みを検討してもらいたい。また、現状で実施されている地域との体験活動が、生徒の回答に反映されていないように感じる。活動の際には、目的と内容を生徒に詳しく説明することで、意識付けを図り、より積極的に地域の方々との交流を促すなど、事業の質の向上にも目を向けてもらいたい。 |
| A | | |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

| 指標(7) 各学校における「学校応援団平均活動回数」(年間) | | | | |
|---|--|-----------------------------------|-------------------------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 市内小・中学校の各学校の学校応援団の1校当たり年間の平均活動回数(安心安全見守り活動を除く)。さらなる活動内容の充実が、学校・家庭・地域の教育力の向上につながることから、この指標を設定した。 | 登下校の見守り活動については、多くの活動回数があり定着しているが、学習支援や地域活動と連携した活動などその他の活動を充実させていく必要がある。年間の授業時数などを考慮し、令和7年度までに20回程度増やすことをめざして、この目標値を設定した。 | 小学校 122.8回 中学校 26.2回 | 小学校 140回 中学校 40回 | 68 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>学校応援団活動を安全に実施するため、傷害保険等に加入した。また、各学校に対して学校応援団の活動に必要な消耗品を購入し、活動の促進を図った。</p> <p>学習活動への支援として学校行事の準備・片付けの補助や、学校の環境整備への支援としての図書室の整理等、学校が求めている活動が実施できた。</p> |
| ③実施結果 | <p>学校応援団は、すべての小・中学校(附属中学校を除く)で設置されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校応援団活動の内容：学習活動への支援、安心安全見守り活動、学校の環境整備への支援、部活動・クラブ活動への支援、生徒指導への支援、環境教育への支援、学校ファームへの支援 年間平均活動回数 <p>小学校：58.8回(安心安全見守り活動163.1回) 中学校：12.6回(安心安全見守り活動18.5回)</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>令和3年度より学校応援団は地域学校協働活動推進事業の一部として実施している。</p> <p>令和4年度に初めて委嘱した地域学校協働活動推進員の任期が令和6年度に満了となり、また新たに委嘱をする予定である。令和6年度は、今まで予定しながら、実施できていない、推進員を対象とした研修会や情報交換会等を実施する。地域と学校をつなぐ役割を担う推進員の協力を得ながら、学校応援団は、各学校の運営がより円滑になるように幅広く活動していく。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 小学校 128回 中学校 30回 | 小学校 131回 中学校 33回 | 小学校 134回 中学校 35回 | 小学校 137回 中学校 38回 | 小学校 140回 中学校 40回 |
| | 小学校 40.6回 中学校 11.2回 | 小学校 61.7回 中学校 19.3回 | 小学校 58.8回 中学校 12.6回 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | C | 令和4年度と比較すると、年間の平均活動回数は小学校、中学校ともに減少した（小学校61.7回→58.8回、中学校19.3回→12.6回）。 評価結果は、目標値を下回っていることからCとする。 |
| | 前回評価 C | 令和3年度と比較すると、年間の平均活動回数は小学校、中学校ともに増加した（小学校40.6回→61.7回、中学校11.2回→19.3回）。 しかし評価結果は、目標値を下回っていることからCとする。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | C | 学校応援団平均活動回数の実績値が、目標値を大きく下回っているため、評価結果をCとする。 学校によって、活動回数の算出方法が異なるのであれば、統一する必要があると考える。また、活動が縮小している中で、学校からどのような需要があるのかな等を調査しながら、今後の学校応援団の在り方について検討してもらいたい。 |
| | 前回評価 B | 学校応援団平均活動回数の実績値は、目標値を下回っているが、小・中学校ともに増加傾向にあることから、評価結果をBとする。 令和5年度はコロナ禍における制限が大幅に緩和されたので、コロナ禍前の実績に戻る可能性もあると思われるが、一度縮小したものを元に戻すのは難しいと考える。地域学校協働活動推進員を活用し、過去に活動がなかった分野への支援を実施するなど、活動の増加に向けて、受け身にならず、積極的に取り組んでもらいたい。 |

基本目標Ⅱ 子どもの成長をサポートする基盤づくり

指標(8) 放課後子供教室の実施校数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|--|----------------|-------------|--------------------|
| 市内小学校において放課後子供教室を実施している校数。放課後子供教室実施校数の増加が、子どもたちの安全・安心な居場所の確保及び、幅広い地域住民等のさらなる参画につながることから、この指標を設定した。 | 放課後子供教室を市内全ての小学校で実施することをめざして、この目標値を設定した。 | 小学校 28校 | 小学校 52校 | 68 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | 放課後子供教室未実施の小学校12校に生涯学習課職員が訪問し、他校の放課後子供教室の活動内容などを周知するとともに、実施に向けて働きかけを行った。 |
| ③実施結果 | <ul style="list-style-type: none"> 前年度から継続的に実施している小学校：33校 令和5年度に新規で実施した小学校：6校 |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|---|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>未実施の小学校については引続き訪問するなど、継続的な働きかけを行う。令和6年度は、新規で5校の実施を予定しており、すでに4校契約済みである（令和6年4月末現在）。</p> <p>委託先が一部の事業者に集中しており、今後は地域団体を中心とした受け皿の拡大が必要であるため、各小学校と連携しながら事業者の確保を目指していく。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 小学校 43校 | 小学校 48校 | 小学校 52校 | 小学校 52校 | 小学校 52校 |
| | 小学校 28校 | 小学校 33校 | 小学校 39校 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | B | 目標値には達していないが、令和5年度は小学校6校で新規に実施し、また、次年度に向けての準備も進めることもできたことから、評価結果はBとする。 |
| | 前回評価 | 目標値には達していないが、令和4年度は小学校5校で新規に実施することができた。また、次年度に向けての準備を進めることもできた。このことから、評価結果はBとする。 |
| | B | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|--|
| | B | 放課後子供教室の実施校数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。 放課後子供教室の活動は、子どもたちにとって有意義なものであり、社会的ニーズが非常に高いと考える。子どもたちの教室への参加機会を増やすため、訪問していない学校に対しても何らかの働きかけが必要だと思われるので、検討してもらいたい。 |
| | 前回評価 | 放課後子供教室の実施校数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。 継続的な働きかけにより、5校で新たに実施できたことは高く評価できる。地域団体が実施するケースが少ないことは残念である。地域団体が実施していない学校でも、地域の方と関われるような活動内容を実施するなど、子どもたちと地域の関わりが重要であることを心に留めておいてもらいたい。 |
| | B | |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

| 指標(1) 生涯学習施設の年間利用者数 ※南平文化会館を除く | | | | |
|---|-----------------------------------|----------------|-------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 市内公民館及び専門施設の年間利用者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。 | 年間利用者数を、令和7年度までに3%増加をめざし目標値を設定した。 | 2,240,811人 | 2,308,035人 | 74 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5.4.1～R6.3.31 |
| ②実施内容 | 生涯にわたり多くの市民の自発的・主体的な学習活動の拠点として、市内公民館33館及び専門施設2館の部屋を提供することで、地域社会における文化の向上や福祉・健康の増進を推進し、魅力ある多種多様な講座・教室を実施した。 |
| ③実施結果 | <p>年間利用者は前年度と比較すると、94,557人増加した。</p> <p>令和4年度利用者数 … 1,491,583人 令和5年度利用者数 … 1,586,140人</p> <p>対面による公民館講座等の詳細</p> <p>主催講座等参加者数 … 14,521人 事業数(講座数等) … 264事業 共催・イベント参加者数 … 81,242人 事業数(講座数等) … 99事業</p> <p>※公民館の重要な役割である「多様な学習機会の提供」「自発的な学習機会の援助」を行うだけでなく公民館利用頻度の低い現役世代の取り込みを行うため、オンライン講座(動画配信)を実施した。</p> <p>令和5年度各公民館制作 31講座 視聴回数：10,025回</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|---|
| ①実施時期 | R6.4.1～R7.3.31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | 公民館主催講座およびオンライン講座の内容充実を継続的に図るとともに、ホームページや館報等に講座情報を掲載し、既存の利用者に合わせて新規利用者を獲得できるような働きかけを行う。 |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 2,263,219人 | 2,274,423人 | 2,285,627人 | 2,296,831人 | 2,308,035人 |
| | 1,224,763人 | 1,491,583人 | 1,586,140人 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|---|
| | B | 目標値を下回ってしまったが、前年度より公民館主催講座を拡充したことや文化祭等の実施により、公民館の利用者数が令和5年度より94,600人ほど増加したことから、評価結果はBとする。 |
| | 前回評価 | 新型コロナウイルス感染症に伴う利用制限がなくなり、前年度と比較し年間利用者は増加しているが、利用団体数の減少や活動を縮小している団体があることなどから、目標値を下回った。しかしながら、コロナ禍で止まっていた文化祭等のイベントが一部再開され公民館事業も増えたことに伴い、地域の方々が多く集まる機会が増え、公民館利用者数が徐々に戻ってきているため評価結果はBとする。 |
| B | | |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|---|
| | B | 生涯学習施設の年間利用者数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。 さまざまな事業の実施により、利用者数は増加傾向にあるため、事業の周知方法を工夫することで、利用者数の増加につながると考える。また、利用者数には含まれないが、オンライン講座であるがゆえに参加できる方もいるため、引き続き、オンライン講座の内容の充実についても併せて努めてもらいたい。 |
| | 前回評価 | 生涯学習施設の年間利用者数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。 さまざまな取り組みによって、増加傾向にあるが、コロナ禍前の利用者数に回復させるのは困難もあると考える。オンラインコンテンツの利用から、生涯学習施設の利用につながるような取り組みを考えてもらいたい。 |
| B | | |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

| 指標(2) 公民館及び専門施設の年間講座参加者数 | | | | |
|---|-----------------------------------|----------------|------------------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 市内公民館及び専門施設主催の年間講座参加者数。 今日的課題や市民ニーズに合わせた学習機会の提供とその成果を示すものとしてこの指標を選定した。 | 年間利用者数を、令和7年度までに3%増加をめざし目標値を設定した。 | 216,107人 | 222,590人 (164,675人) | 74 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | 自己実現をめざす市民の学習・活動意欲の高まりに対応するため、地域の特性や市民の要望を踏まえた講座等を実施した。また、対面だけではなくオンラインでも講座を実施し、一般教養はもとより専門性の高い分野や現代的課題の学習機会を提供した。 |
| ③実施結果 | 公民館及び専門施設において主催した講座・教室および他部署との共催事業等の参加者数、事業数（講座数等）。 令和4年度講座参加者数 … 103,177人 事業数（講座数等）… 315事業 ※うち令和4年度オンライン講座（動画配信） 総視聴回数（令和5年3月31日時点）：18,583回、講座数：29 令和5年度講座参加者数 … 105,875人 事業数（講座数等）… 397事業 ※うち令和5年度オンライン講座（動画配信） 総視聴回数（令和6年3月31日時点）：10,025回、講座数：31 |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | 幅広い年齢層の人々に講座を受講してもらえるようにするため、講座受講後のアンケート等から地域ニーズを把握し、受講しやすい土日や夜間に実施するなどより求められている講座を企画する。 |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|--|------------|------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 218,267人 | 219,347人 | 220,428人 (163,075人) | 221,509人 (163,875人) | 222,590人 (164,675人) |
| ※目標値の再設定について 指標の定義を再検討した結果、実態に沿った数値に再設定するもの。 ()内は新たな目標値 | 62,280人 | 103,177人 | 105,875人 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | C | 事業数（講座数等）は令和4年度と比較し、82事業増加し、講座参加者数も2,698人増加した。オンライン講座については再生回数に伸び悩んだが、全体の講座数および対面講座の参加人数は増加している。事業拡充の点で一定の成果は出ているが、目標値を大きく下回っていることから、評価結果はCとする。 |
| | 前回評価 C | 事業数（講座数等）は令和3年度と比較し、151事業、講座参加者数が40,897人増加したが、講座参加定員を従来の半分に制限していたことなどから、目標値を下回った。しかし、令和3年度から開始したオンライン講座については、今年度新たに29講座を作成し、講座再生回数も大きく伸びているなど、新たな形の社会教育として一定の成果が出ていることから、評価結果はCとする。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|---|
| | B | 年間講座参加者数の実績値は、前年度より増加しているものの、評価対象を現状に即し、見直した目標値を下回っていることから、評価結果をBとする。対面講座の参加者数は増加しているため、引き続き、地域の特性や市民のニーズに応えられる講座を企画し、講座の参加者が増えるよう取り組んでもらいたい。 |
| | 前回評価 B | 年間講座参加者数の実績値は、目標値を下回っているが、コロナ禍前に近い事業数を実施できているなど、取り組みへの努力を感じられるところから、評価結果をBとする。 令和4年度は定員を制限していたとのことだが、コロナ禍による制限が大幅に緩和されたことにより、講座の参加者が増えることが想定されるため、そのニーズに応えることができるよう取り組んでもらいたい。 |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(3) 図書館年間利用者数(入館者数)

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|--|---|----------------|-------------|--------------------|
| 図書館資料貸出数で捉えると閲覧等の場合数値に含まれないため、利用者数(入館者数)とした。 | 平成26-30年度の5年平均増減率-1.7%を平成30年度実績値にかけたものを低位、平成30年度の実績値を現状維持としたものを高位とし、その中間値を算出した。 | 1,608,239人 | 1,687,752人 | 76 |

令和5年度の実施状況

①実施時期 R5.4.1～R6.3.31

②実施内容

おはなし会、わらべうたと絵本の会、対面朗読等を定期的にも実施するとともに、充実した内容とするための講座等(「読み聞かせボランティア講座」、「点訳奉仕者研修会」、「音訳奉仕者研修会」等)を開催した。また、こどもの読書週間に「図書館でクイズ!こたえは本のなか」、夏休みに「読書が楽しくなる!夏休みしおり工作会」(対象小学1年生～6年生)や「図書館員のお仕事体験」(対象小学4年生～6年生)のイベントを実施した。さらに、工夫を凝らしたテーマ展示を行うとともに、他部署と連携し「認知症サポーター養成講座」や「図書館で知る川口」等を実施した。図書館と学校の連携では、「川口の元気夢わーく体験事業」の受入枠を拡大したうえで再開し、また、学校の依頼を受け「出張ブックトーク」、「出張おはなし会」や遠方の学校の児童・生徒も図書館見学ができるよう「オンラインでの図書館見学」を新たに開始した。

③実施結果

| | R3 | R4 | R5 |
|----------------|------------|------------|------------|
| 入館者数 | 1,380,848人 | 1,405,480人 | 1,461,946人 |
| おはなし会参加人数 | 899人 | 2,917人 | 4,295人 |
| 移動図書館利用者数 | 4,462人 | 4,077人 | 4,356人 |
| 講座等参加人数 | 292人 | 587人 | 623人 |
| 総貸出点数(電子図書含まず) | 2,908,381点 | 2,788,015点 | 2,831,317点 |
| 電子図書 貸出点数 | — | 8,300点 | 13,220点 |
| 宅配サービス 利用者数 | — | 20人 | 156人 |

令和6年度以降の取り組み

①実施時期 R6.4.1～R7.3.31

②令和6年度の実施内容及び見直し内容

図書館において基本である図書資料(電子図書含む)の充実に引き続き努めていき、子どもの読書活動の更なる推進のため、おはなし会やわらべうたと絵本の会等の参加者を増やすべく、開催曜日の変更や参加者対象年齢の拡大、周知方法等について見直しを図っていく。また、利用者の利便性の向上のため、座席数の増加についても検討していく。

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | 1,744,581人 | 1,730,007人 | 1,715,680人 | 1,701,596人 | 1,687,752人 |
| | 1,380,848人 | 1,405,480人 | 1,461,946人 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|---|
| | B | <p>読書週間や夏休みに子どもを対象とした新しいイベントを実施し、好評を得た。図書館と学校の連携では、「川口の元気夢わーく体験事業」の受入数の拡大や「オンライン図書館見学」を新たに実施したことにより、学校からの依頼も増加した。</p> <p>また、前年度から開始した「電子図書サービス」の貸出数、来館困難者のための「宅配サービス」の利用者数は順調に増加し、おはなし会の参加者人数や講座等の参加人数についても前年度と比べ増加している。</p> <p>入館者数も、前年度を上回り、様々な事業も創意工夫をし実施したが、目標値に対し、実績値が下回ったことから、評価はBとする。</p> |
| | 前回評価 B | <p>開館時間の短縮や利用制限を行うことなく、感染対策を講じながら図書館運営を実施することができた。一年間休みなく講座や研修会を開催したことで、参加者から喜びの声をいただいた。</p> <p>さらに、10月の図書館システムの更新に合わせて、貸出点数を増やすとともに、「電子図書サービス」も新たに開始し、8,300点が貸出された。</p> <p>また、セルフ式「座席管理システム」をスタートするなど、新たな取り組みを複数実施できた。</p> <p>結果、入館者数は前年度を上回り、新たなサービスの提供を開始するとともに、安全・安心を第一に、継続した事業展開を行い、利用者の利便性向上を図れたことから、評価結果をBとする。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|---|
| | B | <p>図書館年間利用者数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。</p> <p>様々な事業を創意工夫し、利用者の増加につながっていることは評価できる。図書の閲覧・貸出や、講座への参加だけでなく、静かに学習できる環境も図書館の魅力だと思われるので、座席数の増加を検討し、来館者数の増加につなげてもらいたい。また、電子図書サービスなど、来館せずに受けられるサービスの需要は、今後も高まっていくと考えられるため、引き続き取り組んでもらいたい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>図書館年間利用者数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。</p> <p>コロナ禍前から利用者数が減少傾向にあった中、コロナ禍によりさらに大きく減少した利用者数を、指標設定時まで回復させることは困難もあり得ると考える。その中で、電子図書サービスは期待される取り組みではあるが、民間サービスとの重複もあり得るため、バランスを考えながら、令和4年度の実績値を上回るように取り組んでもらいたい。</p> |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

指標(4) 科学館の年間利用者数

| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
|---|---|----------------|-------------|--------------------|
| 科学館における科学展示事業・天文台事業・プラネタリウム事業の参加者数、科学出張教室・太陽観測出張授業・夜間出張観望会などの館外事業参加者数。科学への市民の興味・関心を引く事業の充実や、博学連携をめざした理科教育への支援の成果を示すものとして、この指標を選定した。 | 科学館の平成30年度の利用者数を基準として、1%増の目標値を設定した。 ※令和元年度は、特別展を実施したことにより、平年に比べて大幅に利用者が増加したため、平成30年度を基準値とした。 | 198,959人 | 197,628人 | 78 |

令和5年度の実施状況

①実施時期 R5.4.1～R6.3.31

②実施内容

令和5年4月29日(土・祝)に開館20周年を迎え、イベント数を増やすとともに記念式典・特別イベントを開催した。

○科学展示事業…実験ショーや身近な素材を用いた工作を行う教室等の定期事業、学校等の学習利用を実施した。学校や地域・企業と連携して行う科学出張教室等の館外事業を実施した。家でも科学に触れられるウェブコンテンツ(学習支援コンテンツ・科学館YouTubeチャンネル)を提供した。

○天文台事業…天文台ガイドツアー及び夜間観測会を実施した。館外事業では学校の依頼により太陽観測出張授業を実施した。また、天文台の望遠鏡で撮影した金星のライブ配信を行った。

○プラネタリウム事業…定例事業の一般投影(小学生～一般対象)、学習投影(小学校、幼稚園等)を実施した。また、特別投影(七夕・クリスマス・星空リラクゼーション)及び宇宙航空研究開発機構(JAXA)職員を講師に招いての天文講演会を実施した。

○特別企画事業…職員の企画・立案による6月・7月期特別展「チョコレート～カカオがとどける幸せな世界～」では、株式会社ロッテの協力、国立科学博物館のほか様々な団体と連携し、専門的展示物を揃えるとともに、親しみのあるお菓子をテーマにしたことに加え、チョコレートを科学するという意外性が多い来館者の興味につながった。11月のサイエンスまつり期間には、市内小中学校から作品を募集し、開館20周年を記念した絵画展を開催した。12月～2月期には、特別展業務委託による特別展「せっかく来たから“せっかく”見ていく?～錯覚の科学を楽しもう!～」を開催した。

③実施結果

○科学展示事業…科学展示施設入場者76,756人・館内事業参加者数67,798人・館外事業参加者数7,814人

○天文台事業…天文台見学者数1,488人・館外事業参加者数618人・天文台特別ライブ配信アクセス数807回

○プラネタリウム事業…プラネタリウム観覧者数37,723人

○特別企画事業…31,124人

令和6年度以降の取り組み

①実施時期 R6.4.1～R7.3.31

②令和6年度の実施内容及び見直し内容

科学展示事業では、学習支援コンテンツやYouTubeチャンネルの中で、学校や家庭でもできるものづくりの紹介や過去の動画配信に加えて、来館して確かめたいような紹介動画を作成するなど、内容を工夫して継続する。また、学校連携事業のさらなる充実を目指し、これまでの周知に加えて、指導課に依頼した校務支援システムの活用や、学校籍職員によるGIGAスクール端末を活用した周知とデータ配付を行うことで、それぞれの担当の先生が自席から科学館事業を確認できるように工夫した。さらに、年度初めの理科主任会において、学習活動の支援方法やこれまでの連携事業の実績を報告し、より一層の周知を図ったところである。

プラネタリウム事業では、医療機器による音や光、多少の声が出ても気兼ねなく観覧できる「おもいやりプラネタリウム」の開催を検討する。

特別企画事業では、企業や県内高等学校との連携事業が増えているため、館内の定期事業と調整しながら、事業拡大に努める。

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 189,916人 | 191,816人 | 193,734人 | 195,671人 | 197,628人 |
| | 139,964人 | 208,301人 | 223,321人 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|------|--|
| | A | <p>令和4年度までスキップシティで開催されていた市産品フェアに合わせて科学館は無料公開していたが、令和5年度は市産品フェアがオートレース場で開催され、科学館としては利用者の減少要因であったが、実績値は223,321人となり、目標値193,734人及び令和4年度年間利用者数を大きく上回ることができたことから、評価結果はAとする。</p> <p>○科学展示事業は、平日の学校利用がコロナ禍前に戻り、依頼のあった学校のほぼ全てを受け入れ実施したことにより、館内事業参加者数の増加に繋がった。</p> <p>○天文台事業では、天文台ガイドツアーや夜間観測会、その年の特別な天文現象（月・土星）を観測する特別観測会を実施した。また、小中学生向けに夏休み子ども天文教室、大人向けに太陽観測実習や天体撮影実習など様々な特別企画を開催し、広く天体観測の機会を提供することができた。</p> <p>○プラネタリウム事業は、定例事業、特別事業ともに計画どおり実施することができた。特に特別投影及び天文講演会は、前年実績を上回る観覧者数となり、大変好評であった。</p> <p>○特別企画事業は、6月・7月期の特別展「チョコレート展」では、親しみのあるテーマから来館者の興味に繋がり、テーマに意外性もあったことから新規の来館者獲得にも繋がった。また、年間を通して開催した「科学ものづくり教室」では、企業や県内高等学校から講師を招いて行うことで定員を上回る応募があり、科学館利用機会の増加に繋がった。</p> |
| | 前回評価 | <p>まん延防止等重点措置等が解除され、コロナ以前と変わらない入場者数にまで回復することができた。入場料収入は、前年度と比較し、約144%増となり、年間利用者数は208,301人と目標値191,816人を大きく上回ることができたことから、評価結果はAとする。</p> <p>○科学展示事業は、平日の学校利用が徐々に戻りはじめ、感染対策を講じながら依頼のあった学校のほぼ全てを受け入れ実施したことにより、館内事業参加者数の増加に繋がった。</p> <p>○天文台事業では、定例の夜間観測会を再開し、特別観測会においても計画通り実施できた。特別観測会「皆既月食」においては725名の参加者があり、令和3年度の特別観測会に比較して3倍以上の参加者となり、注目度の高い天文現象について多くの方に観測の機会を提供することができた。また、特別観測会に併せて、インターネットを活用した天文台特別ライブ配信「皆既月食Live!」も同時に実施することにより、より広い範囲の方に情報発信することができた。</p> <p>○プラネタリウム事業は、定例事業、特別事業ともに、基本的な感染対策を実施しながら計画通り実施することができた。特に特別投影「星空リラクゼーション」においては、近隣のアマチュア吹奏楽団に依頼し、ライブの演奏とともに星空解説を行う企画を実施し、定員に達するほどの好評な事業となった。</p> <p>○特別企画事業は、6月・7月期の特別展「たまご展」では、鶏卵の孵化実験を生体展示し、命の誕生の瞬間を求める来館者が何度も足を運ぶ機会を作り、リピーター層の獲得に繋がった。また、浦和工業高校と連携した「2足歩行ロボット講座」においても、令和3年度の参加者が令和4年度の競技会事業に参加するなど、継続して科学館利用事業の展開を確立できた。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|------|---|
| | A | <p>科学館の年間利用者数の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。</p> <p>新たな取り組みが、利用者の参加につながっていることは、高く評価できる。幼少期から科学に触れることは大切であることから、今後は、未就学児に向けたイベントを充実させるなど、利用者数の増加につながるよう努めてもらいたい。</p> |
| | 前回評価 | <p>科学館の年間利用者数の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。</p> <p>学校の学習利用等を大きく伸ばし、コロナ禍前の利用者数にまで回復させていることは高く評価できる。今後は、子どもを対象としたイベントを催すだけでなく、保護者も一緒に参加して学べるようなイベントを企画するとともに、その周知を図るなど、利用者数の増加につながるよう努めてもらいたい。</p> |

基本目標Ⅲ 市民が自己実現をめざせる環境づくり

| 指標(5) スポーツ施設の年間利用者数 | | | | |
|---|--|----------------|-------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 市民のスポーツ・レクリエーションに対するニーズや健康に対する意識も高まっており、スポーツ活性化を促進し、健康・体力づくりやスポーツ人口の拡大を示すものとして、この指標を選定した。 | 令和元年度の現状値に、新型コロナウイルス感染症防止対策等に伴う施設休止による減少分を加算したものを低位、施設の大規模改修等による施設休止を行う以前の平成28年度の施設利用者数を高位とし、その中間値を目標値とした。 | 2,154,439人 | 2,366,171人 | 80 |

| 令和5年度の実施状況 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|-----------|--------|--|--|-----|--|--|--|----|----|-----|----------------|---------|---------|-------|-----|---------|---------|-------|-----|---------|---------|-------|-----|---------|---------|--------|------|---------|---------|------|-----|---------|---------|-------|--|-----|--|--|--|----|----|-----|------|---------|---------|-------|------|---------|---------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|---------|---------|-------|----------------|--------|--------|-------|----|-----------|-----------|------|
| ①実施時期 | R5.4.1～R6.3.31 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②実施内容 | <p>利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応えるため、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、スポーツ施設を利用者の自主的なスポーツ活動の場として提供するとともに、スポーツ教室の開催やスポーツ施設の無料開放などスポーツに触れる機会を提供した。</p> <p>また、スポーツ施設の整備・充実を図るため、辻庭球場（鳩ヶ谷スポーツセンター所管）のクレーコート及び金網フェンス改修工事などの大規模改修を実施し、安全かつ安心な施設として利用者に提供するとともに、埼玉県内の屋内50メートル水泳場整備に伴い、神根運動場周辺を総合運動公園として一体的に整備するため、北スポーツセンター関連施設の解体工事を実施した。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③実施結果 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">(人)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>青木町公園 総合運動場</td> <td>274,400</td> <td>306,845</td> <td>11.8%</td> </tr> <tr> <td>東SC</td> <td>216,631</td> <td>252,293</td> <td>16.5%</td> </tr> <tr> <td>西SC</td> <td>225,610</td> <td>255,046</td> <td>13.0%</td> </tr> <tr> <td>北SC</td> <td>179,387</td> <td>148,515</td> <td>-17.2%</td> </tr> <tr> <td>新郷SC</td> <td>150,944</td> <td>151,628</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>芝SC</td> <td>147,120</td> <td>165,252</td> <td>12.3%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="3">(人)</th> </tr> <tr> <th></th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>安行SC</td> <td>107,044</td> <td>122,912</td> <td>14.8%</td> </tr> <tr> <td>戸塚SC</td> <td>320,652</td> <td>354,803</td> <td>10.7%</td> </tr> <tr> <td>鳩ヶ谷SC</td> <td>91,194</td> <td>82,170</td> <td>-9.9%</td> </tr> <tr> <td>体育武道C</td> <td>126,703</td> <td>125,576</td> <td>-0.9%</td> </tr> <tr> <td>体育館 (戸塚,根岸)</td> <td>44,509</td> <td>40,709</td> <td>-8.5%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,884,194</td> <td>2,005,749</td> <td>6.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和5年度に工事を実施したことにより休止をした主な施設及び期間</p> <ul style="list-style-type: none"> 東スポーツセンター (体育館照明設備改修工事) 令和5年10月16日～令和6年1月6日まで休止 安行スポーツセンター (プール棟エアコン改修工事) 令和6年2月1日～令和6年3月31日まで休止 安行スポーツセンター (プール自動塩素注入装置改修工事) 令和6年2月1日～令和6年3月31日まで休止 鳩ヶ谷スポーツセンター (辻庭球場クレーコート等改修工事) 令和5年12月1日～令和6年4月30日まで休止 体育武道センター (体育館バスケットゴール改修工事) 令和5年9月1日～令和5年9月17日まで休止 北スポーツセンター (神根運動場周辺整備に伴う解体工事) 令和5年12月1日～令和6年3月31日まで休止 | | | | | (人) | | | | R4 | R5 | 増減率 | 青木町公園 総合運動場 | 274,400 | 306,845 | 11.8% | 東SC | 216,631 | 252,293 | 16.5% | 西SC | 225,610 | 255,046 | 13.0% | 北SC | 179,387 | 148,515 | -17.2% | 新郷SC | 150,944 | 151,628 | 0.5% | 芝SC | 147,120 | 165,252 | 12.3% | | (人) | | | | R4 | R5 | 増減率 | 安行SC | 107,044 | 122,912 | 14.8% | 戸塚SC | 320,652 | 354,803 | 10.7% | 鳩ヶ谷SC | 91,194 | 82,170 | -9.9% | 体育武道C | 126,703 | 125,576 | -0.9% | 体育館 (戸塚,根岸) | 44,509 | 40,709 | -8.5% | 合計 | 1,884,194 | 2,005,749 | 6.5% |
| | (人) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R4 | R5 | 増減率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 青木町公園 総合運動場 | 274,400 | 306,845 | 11.8% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東SC | 216,631 | 252,293 | 16.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 西SC | 225,610 | 255,046 | 13.0% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 北SC | 179,387 | 148,515 | -17.2% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新郷SC | 150,944 | 151,628 | 0.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 芝SC | 147,120 | 165,252 | 12.3% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (人) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | R4 | R5 | 増減率 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安行SC | 107,044 | 122,912 | 14.8% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 戸塚SC | 320,652 | 354,803 | 10.7% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鳩ヶ谷SC | 91,194 | 82,170 | -9.9% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 体育武道C | 126,703 | 125,576 | -0.9% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 体育館 (戸塚,根岸) | 44,509 | 40,709 | -8.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 1,884,194 | 2,005,749 | 6.5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 令和6年度以降の取り組み | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6.4.1～R7.3.31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>スポーツ施設の管理運営については、利用者の健康・体力づくりやスポーツに対する需要に応えるとともに、今後も安全・安心にスポーツ・レクリエーション活動が実施できる場として施設を提供するため、施設の計画的な改修及び設備の更新を行う。また、スポーツ関係団体が開催する大会等の会場確保等を支援し、スポーツを「する」、「みる」、「ささえる」機会の提供を継続して取り組むことに努めていく。</p> <p>あわせて、神根運動場周辺整備に伴い、令和5年12月からの北スポーツセンターの利用休止に加え、神根運動場についても令和7年1月から施設利用を休止予定であることから、市内スポーツセンターと連携を図り、当該施設利用者への影響が最小限となるよう努めていく。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------------|------------|------------|------------|------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 2,225,015人 | 2,260,304人 | 2,295,593人 | 2,330,882人 | 2,366,171人 |
| | 1,673,570人 | 1,884,194人 | 2,005,749人 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|--|
| | B | <p>子どもから高齢者まで幅広い年齢層の利用者が、スポーツ活動に親しめるよう、スポーツ施設の計画的な改修及び設備機器の更新を行い、本市のスポーツ推進に努めてきた。</p> <p>令和5年度については、辻庭球場（鳩ヶ谷スポーツセンター所管）の改修工事をはじめ各施設の設備改修に伴い利用休止期間が生じたことから、利用者数が目標値を下回ったが、神根運動場周辺整備に伴う北スポーツセンターの利用休止については、近隣施設への利用調整を図るなど、利用者への影響が最小限となるよう努めた。</p> <p>こうした取り組みや、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行もあり、前年度に比べ利用者数は増加傾向にあることから、評価結果はBとする。</p> |
| | 前回評価 B | <p>子どもから高齢者まで幅広い年齢層の利用者などが、スポーツ活動に親しめるよう、スポーツ施設の計画的な改修及び設備機器の更新を行い、本市のスポーツ推進に努めてきた。こうした中、安行スポーツセンター野球場照明改修工事をはじめ各施設の改修工事等に伴う休止により、施設の利用ができない期間が生じ、利用者数が目標値を下回った。</p> <p>しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が緩和され、各種イベントを再開したことなどにより、前年度に比べ利用者数は増加傾向にあることから、評価結果はBとする。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|--|
| | B | <p>スポーツ施設の年間利用者数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。</p> <p>計画的に施設の改修を行い、安全に利用できるよう取り組んでいることは、評価できる。今後も、市民の要望を参考にしながら、施設の改修を進めてもらいたい。また、コロナ禍による制限が緩和されたことで、新たな団体利用も考えられるため、活動できる場所や利用方法の工夫を図ることで、利用者の増加に努めてもらいたい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>スポーツ施設の年間利用者数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。</p> <p>コロナ禍により、目標値を達成できなかったのは致し方ないとする。令和5年度は制限が大幅に緩和されたので、利用者が増加することを期待している。また、毎年、改修等により施設を利用できない期間が生じることは致し方ないことだが、近隣施設を案内するなど、利用者への影響が最小限となるよう努めてもらいたい。</p> |

基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

| 指標(1) 文化財センター及び分館への年間来館者数 | | | | |
|--|-------------------------------|----------------|----------------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| 文化財の調査・保存や伝統文化などの文化財情報を市民へ発信する場である常設展示・特別展示等において、情報を共有していただいた市民の人数として、この指標を設定した。 | これまでの実績を踏まえ、約5,000人の増加を目標とする。 | 72,625人 | 77,500人 (46,500人) | 92 |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>文化財センター及び分館において、常設展示や企画展、イベントなどを実施した。</p> <p>また、市内小・中学校を対象に、社会科見学の受け入れや文化財課が所蔵する資料等を活用し、郷土の歴史等を解説する歴史教室を、各学校へ出向く出前授業とオンライン授業にて実施した。</p> <p>さらに、本市の歴史や文化財を紹介するSNSを毎日発信したほか、学習支援コンテンツの配信(YouTube動画、資料等)も随時行った。</p> |
| ③実施結果 | <p>年間来館者数53,271人 (文化財センター1,254人、郷土資料館5,874人、旧田中家住宅5,904人、歴史自然資料館40,239人)</p> <p>各種事業の参加者数は以下のとおり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展(郷土資料館・旧田中家住宅・歴史自然資料館)…6,876人 ・イベント(文化財センター・郷土資料館・旧田中家住宅・歴史自然資料館)…9,524人 ・社会科見学(郷土資料館)…4件 341人 ・歴史教室…240件 30,001人(出前授業84件 9,024人、オンライン授業156件 20,977人) ・学習支援コンテンツ(74個)視聴回数…YouTube動画21,817回(R5. 4. 12～R6. 5. 2累計) HP「おうちで博物館」766回(R5. 4. 1～R6. 3. 31) |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>オンライン事業の需要が高いことから、オンラインによる歴史教室や、文化財を活用した学習支援コンテンツの配信、SNSによる情報発信等を継続して実施する。また、文化財センターの移転により、郷土資料館は、新たに文化財センター「郷土資料館」となったため、旧文化財センターの特徴と郷土資料館の特徴を融合した、リニューアル展示を実施するとともに、郷土の歴史や文化財の情報をより多くの人に提供するため、企画展やイベントの充実を図る。旧田中家住宅については、耐震補強工事のため、令和6年度12月末で休館するが、指定管理者と連携し、休館前にイベント等を実施し、来館者の増加に努める。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|---|------------|------------|------------|----------------------|----------------------|
| | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 | 目標値 実績値 |
| 毎年度 | | | | | |
| ※目標の再設定について 施設の閉館及び休館に伴い再設定するもの。 ・旧文化財センター (R6. 3. 31で閉館) ・旧田中家住宅 (R7. 1. 1から休館) 新たな目標値: これまでの実績を踏まえ、令和6年度は51,000人、令和7年度は46,500人を目標とする。 ()内は新たな目標値 | 73,600人 | 74,575人 | 75,550人 | 76,525人 (51,000人) | 77,500人 (46,500人) |
| | 44,150人 | 74,077人 | 53,271人 | | |

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|---------------|---|
| | B | <p>年間来館者数については、文化財センター及び郷土資料館、旧田中家住宅の3施設で前年度を上回ることができ、特に郷土資料館における小・中学生の来館者数はコロナ禍前の年間平均と比べて15倍と大幅に増加することができたが、歴史自然資料館では減少となった。</p> <p>来館者数には数えられないが、出前授業やオンライン授業の歴史教室も広く浸透し、延べ参加者数は市内全小・中学生の7割にあたる3万人を達成した。また学習支援コンテンツとして配信しているYouTube動画の総再生回数が20,000回以上に達したことや、今年度もSNSを活用した毎日の情報発信を継続して実施することができた。さらに、令和4年度から郷土資料館にベーゴマの展示・体験コーナーを設けたことで、賑わいが生まれ、各種メディアでも頻繁に取り上げられるようになり、県内や首都圏だけでなく全国的に報じられている。現在は、NHK ワールド JAPANにて世界160の国と地域に配信されている。これらの活動により、郷土の歴史や文化財の魅力を発信し続けられたことから、評価結果はBとする。</p> |
| | 前回評価 B | <p>年間来館者数については、前年度から大幅に増加し、目標値に近い実績をあげることができた。歴史教室については、出前授業に加えてオンラインによる需要が高まったことから大幅に参加者が増加し、市内小・中学生の約60%にあたる児童・生徒に実施することができた。また、オンライン歴史教室については、先進的な取り組みとして文部科学省で全国の教育委員会に向けて紹介された。更に、学習支援コンテンツの配信や、SNSを活用した毎日の情報発信を継続して実施することができた。これらの活動により、郷土の歴史や文化財の魅力を発信し続けられたことから、評価結果はBとする。</p> |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|---------------|--|
| | B | <p>年間来館者数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。歴史教室の開催やSNS、学習支援コンテンツの配信を積極的に実施し、文化財の魅力を発信に努めたことは評価できる。しかしながら、実績値が前年度より減少していることから、今後は、イイナパーク川口内に位置する歴史自然資料館でのイベントを開催するなど、来館者数の増加につながる取り組みを検討してもらいたい。</p> |
| | 前回評価 B | <p>年間来館者数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。令和4年度も各学校が文化財センターへの社会科見学を見送っている中、オンラインによる授業で文化財の魅力を発信するなど、来館者数を大きく伸ばしていることは非常に高く評価できる。近隣の学校に社会科見学についての声かけをするなど、来館者数の増加につなげてもらいたい。</p> |

基本目標Ⅳ 地域におけるさまざまな資源の活用

| 指標(2) 古文書・写真等資料の収蔵点数 | | | | |
|--|------------------------------------|----------------|------------------------------|--------------------|
| 指標の定義・選定理由 | 目標値の根拠 | 現状値 (指標設定時) | 目標値 (R7) | 教育振興 基本計画 の頁 |
| <p>解説・データベース化し活用されていく前提となる、古文書・写真等資料の収蔵(寄贈・寄託)されている数として、この指標を設定した。</p> | <p>これまでの実績を踏まえ、約500点の増加を目標とする。</p> | <p>90,758点</p> | <p>91,250点 (92,550点)</p> | <p>96</p> |

令和5年度の実施状況

| | |
|-------|---|
| ①実施時期 | R5. 4. 1～R6. 3. 31 |
| ②実施内容 | <p>資料所有者からの調査依頼により調査を実施し、寄贈の手続きを経て収蔵した。令和5年度は市内所有者からの寄贈1件(2点)の依頼があり、昭和年代の資料を収集した。</p> <p>また、これまでに収蔵した古文書について、解説と活用を進めており、解説が完了した古文書の一部は、『川口市史料叢書』として刊行する他、古文書講座のテキスト等として活用している。</p> |
| ③実施結果 | <p>令和5年度は、市内所有者から寄贈1件(2点)を受けた。寄贈1件(2点)については、昭和20年の太平洋戦争後における日本の学校教育制度の変革期の時期の資料である。1950年頃の青木地区の学校校舎の写真、教職員・児童の集合写真があり、鉄骨造校舎や教師並びに児童の服装などもその時代を反映している。また、生徒会や運動部及び文化部の紹介、修学旅行等の写真があり、新制中学校の状況を知る資料である。</p> <p>活用については、既に解説が完了した古文書15冊をまとめ、『川口市史料叢書第二集 御用留近代編第3巻』を刊行した他、古文書講座の初級編・中級編を開催し、59名が参加した。</p> |

令和6年度以降の取り組み

| | |
|--------------------|--|
| ①実施時期 | R6. 4. 1～R7. 3. 31 |
| ②令和6年度の実施内容及び見直し内容 | <p>今後は、古文書・古写真を寄贈する旧家及び所有者の減少が予想されるため、新たに収蔵することが困難になると思われるが、川口市の歴史を伝える資料の散逸を防ぐために、市民からの資料に関する情報を堅実に把握し、資料の調査・収集・保管に努める必要がある。また、今後も引き続き資料の収集・保管を行うとともに、企画展での展示や古文書に関する刊行物の発行、講座の開催等を通じて古文書等の資料活用を図っていく。</p> |

| 集計年度 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|---------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 | 目標値 |
| | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 | 実績値 |
| 毎年度 | 90,856点 | 90,954点 (92,184点) | 91,052点 (92,306点) | 91,150点 (92,428点) | 91,250点 (92,550点) |
| | 92,062点 | 92,270点 | 92,272点 | | |

※目標の再設定について
令和7年度の目標を令和3年度で達成したことから再設定するもの。
新たな目標値：
これまでの実績を踏まえ、令和3年度実績値に加えて約500点の増加を目標とする。
()内は新たな目標値

| 内部評価 | 評価結果 | 評価結果の理由 |
|------|-----------|---|
| | B | 令和5年度は、昭和20年の太平洋戦争後における日本の学校教育制度の変革期の時期の資料を収蔵した。古文書・写真等資料以外を含む、市民からの寄託及び寄贈の相談は度々あり、その都度、調査及び判断しているが、令和5年度の古文書・写真等資料の受け入れとなった件数は寄贈1件（2点）であり、目標値を下回ったため、評価結果はBとする。 |
| | 前回評価 A | 令和4年度は、新郷地区に関する江戸時代の地域資料や明治時代の行政資料、金融業、小売業に関する資料等を収蔵した。特に、江戸時代中期の前野宿村の耕地や年貢に関する資料である検地帳は、当時の村の様子を知るためには不可欠の資料である。こうした貴重な資料群の寄贈や寄託を受けたことで、目標値より多くの資料を収蔵することができたため、評価結果はAとする。 |

| 外部評価委員評価 | 評価結果 | 外部評価委員のコメント |
|----------|-----------|---|
| | B | 収蔵点数の実績値が、目標値を下回っているため、評価結果をBとする。 古文書等の提供がないと、新たに収蔵することは困難だと考えられる。今後は、貴重な文化財の散逸を防ぐためにも、市の保存事業を積極的に周知し、資料の収蔵により一層努めてもらいたい。 |
| | 前回評価 A | 収蔵点数の実績値が、目標値を上回っているため、評価結果をAとする。 古文書講座を実施するなど、活用に力をいれていることは高く評価できる。 収蔵された古文書・写真等資料は活用されることが重要であるため、データ化が困難な資料を除いてアーカイブ化を検討してもらいたい。 |